

滝尾駅前広場整備基本計画

令和 6 年 12 月
大分市



目 次

序 章

1. 目的と位置づけ	1
2. 計画の対象	2
3. 計画の策定体制	3
4. 駅前広場の機能	4
4-1. 駅前広場の空間と機能	4
4-2. 都市の広場機能と導入施設	4

第1章 滝尾駅を取り巻く状況

1. 滝尾駅周辺の概況	5
1-1. 人口動向	5
1-2. 交通環境	6
1-3. 都市計画法規制（用途地域）の状況	8
1-4. 土地利用の状況	10
1-5. ハザードエリアの状況	12
1-6. 歴史文化資源の状況	14
2. 滝尾駅の状況	16
2-1. 鉄道の利用状況	16
2-2. 滝尾駅前の交通状況	17
2-3. 滝尾駅および周辺の現地状況	19
3. 市民意向の把握	22

第2章 滝尾駅周辺の課題

1. 滝尾駅周辺の問題点と課題の整理	23
--------------------------	----

第3章 滝尾駅前広場の整備方針

1. 滝尾駅前広場の将来像・基本方針	26
1-1. 滝尾駅前広場の将来像	26
1-2. 基本方針	26
1-3. 取組内容	27

第4章 滝尾駅前広場整備基本計画

1. 滝尾駅前広場の整備計画	28
1-1. 滝尾駅の将来利用者数の推計	28
1-2. 滝尾駅前広場の交通空間に最低限必要な施設規模	28
1-3. 滝尾駅前広場の導入施設	29
2. 滝尾駅前広場の配置計画	31
3. 基本計画図	34
4. 計画実現に向けて	35

資 料 編

1. 上位・関連計画および関連事業	36
2. ワークショップ	52
2-1. ワークショップの概要	52
2-2. ワークショップニュース	53
3. 地元会議	61
3-1. 地元会議の概要	61
4. 滝尾駅前広場の将来利用者数	63
5. 交通空間の施設規模	69
6. 滝尾駅前広場整備基本計画の策定経過	72

序 章

1. 目的と位置づけ
2. 計画の対象
3. 計画の策定体制
4. 駅前広場の機能

1. 目的と位置づけ

本市の中央部に位置するJR滝尾駅の周辺は、JR大分駅まで鉄道で約7分という都心部へのアクセスの良さを持ちながら、身近に農地や緑地、歴史的資源が点在する魅力的な地区です。

本地区は、旧肥後街道沿いの集落から発展した歴史ある市街地であり、現在に至るまで大きな機能更新が行われておらず、成長社会から成熟社会への移行に伴い、時代のニーズに沿ったまちづくりが求められています。

このような背景から、JR滝尾駅周辺の魅力や利便性、安全性をより高めるため、都市基盤の整備を進めることを目的とし、2023年(令和5年)3月に、「滝尾駅周辺整備基本構想(以下、「基本構想」という)」を策定しました。この基本構想に基づき、今後具体的な施策を順次展開していくこととしています。

「滝尾駅前広場整備基本計画」は、特に駅前広場と駅周辺の将来像について、整備方針や空間構成などを定めることを目的としています。

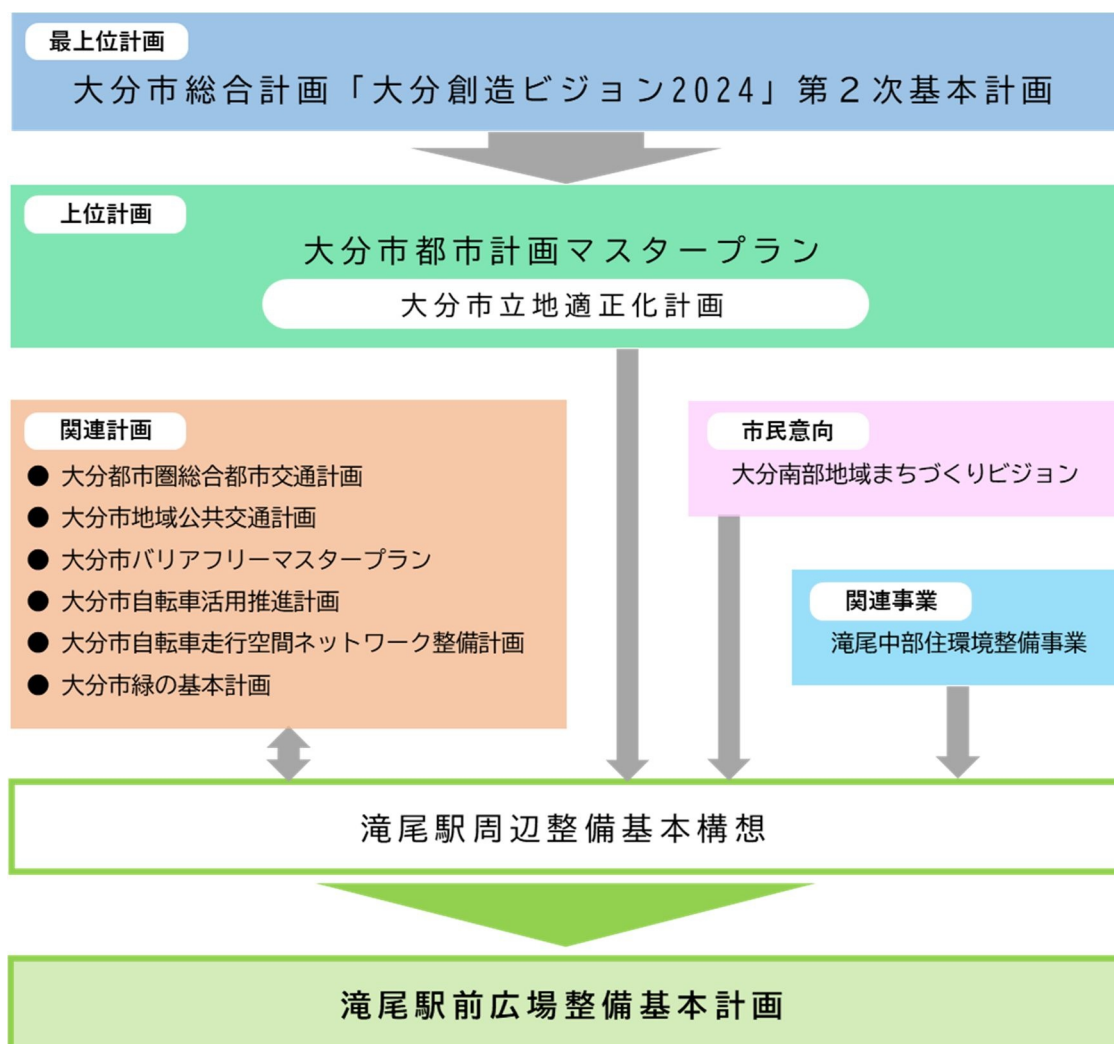


図-1 計画の位置づけ

2. 計画の対象

本計画の対象となる「滝尾駅前広場」は、1949年(昭和24年)1月31日に都市計画決定された駅前広場であり、計画面積は3,000㎡(約78m×約40m)となっています。

本計画では、都市計画で決定された駅前広場区域を対象とします。

また、基本構想における他の取組とも密接に関連しているため、多角的な視点が求められます。具体的には、都市計画道路 滝尾駅前線(以下、「(都)滝尾駅前線」という)や駅周辺の整備も考慮した計画とします。

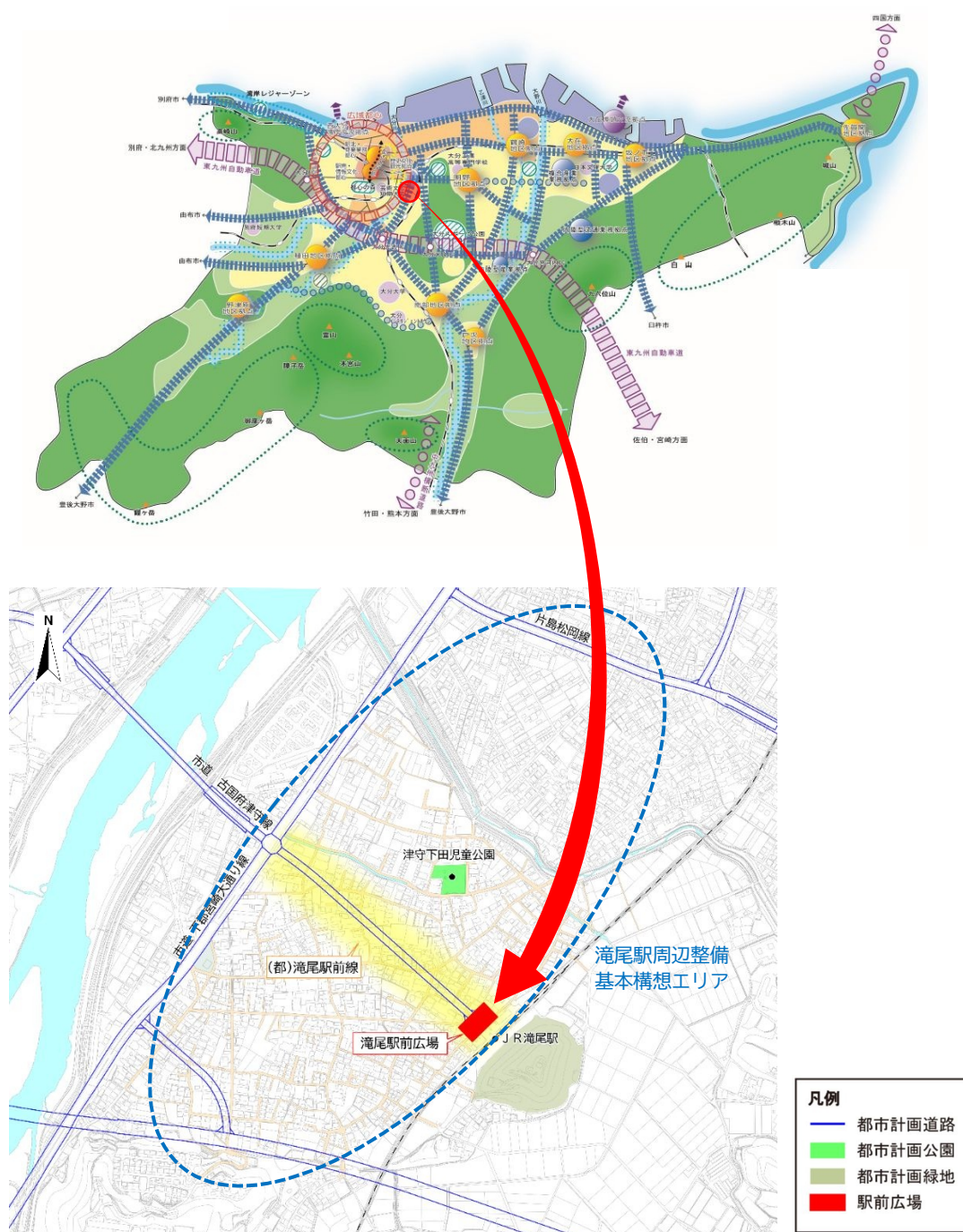


図-2 計画の対象

3. 計画の策定体制

本計画の策定にあたっては、自治会長や地元代表者などで構成する「滝尾駅前広場の基本計画に関する地元会議」を設置し、庁内の関係各課や関係機関と協議しながら、計画の策定を行っています。

また、地元住民から幅広い意見を聴収するため、ワークショップを開催し、地域の問題点やまちづくりの方向性、駅前広場の整備方針について意見を収集し、計画に反映しています。

さらに、JR滝尾駅の利用状況や駅前交差点の交通量に関する実態調査を実施し、その結果を計画に活用しています。

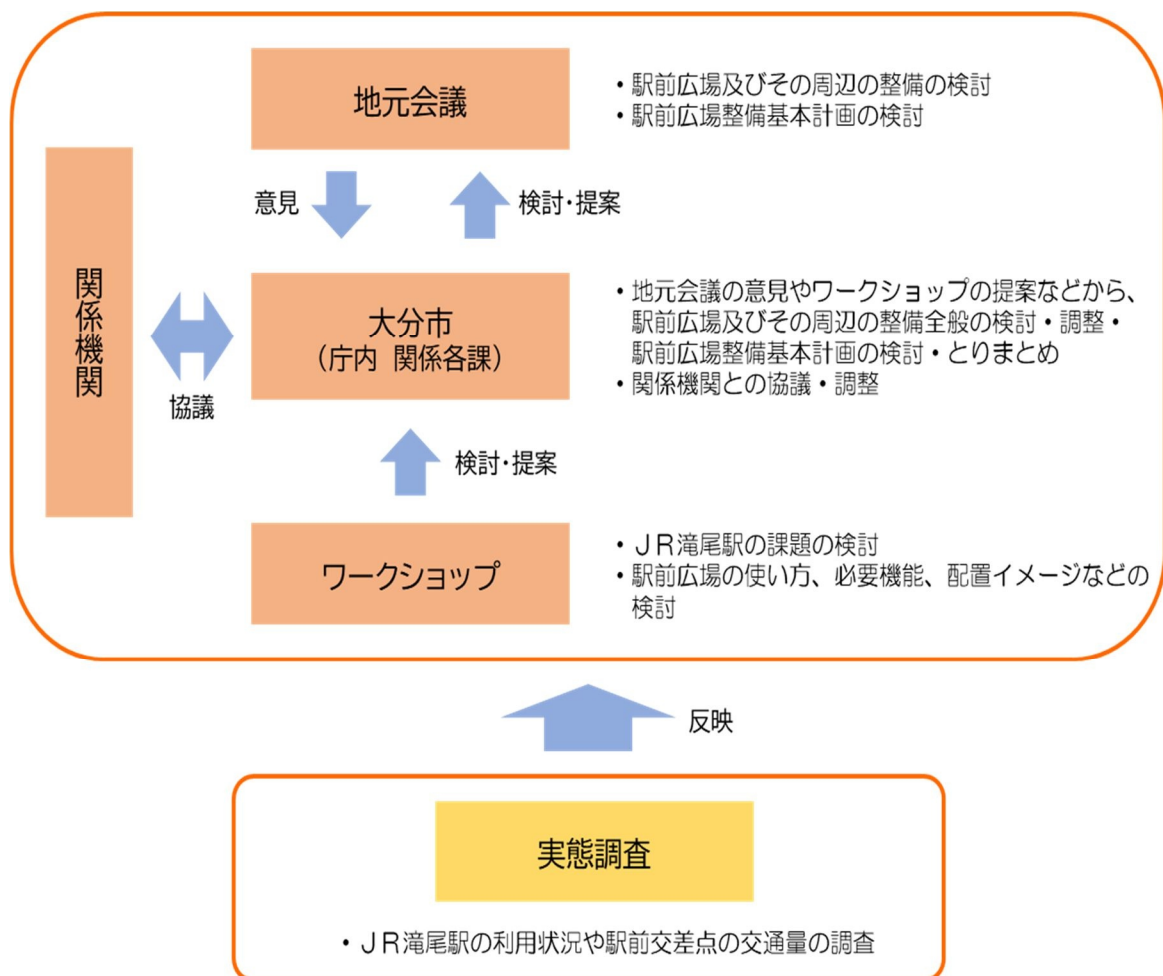


図-3 計画の策定体制

4. 駅前広場の機能

4-1. 駅前広場の空間と機能

駅前広場は、鉄道利用者がバスや送迎車等への乗換えを行う「交通空間」としての役割をもつ一方で、買い物客や待合せ等の人々の交流や都市景観を形成する「環境空間」としての役割も担っています。

駅前広場の機能は、大きく分けて「交通結節機能」と「都市の広場機能」の2つに分類されます。さらに、「都市の広場機能」は、「市街地拠点機能」「交流機能」「景観機能」「サービス機能」「防災機能」の5つに大別されます。

■駅前広場の空間と機能

空間	機能	特性
交通空間	① 交通結節機能	・ 各種交通をつなぎ、乗り換え等ができる
環境空間	都市の ② 市街地拠点機能	・ 地区の拠点を形成する
	③ 交流機能	・ 憩い・集い・語らいの中心となる
	④ 景観機能	・ 地区の顔(シンボル)としての景観を形成する
	⑤ サービス機能	・ サービスや情報を提供する
	⑥ 防災機能	・ 防災活動の拠点となる

4-2. 都市の広場機能と導入施設

「都市の広場」としての機能は、すべての駅前広場において一律ではなく、駅や都市の特性に配慮し、それぞれの駅前広場に適した機能を配置することが重要です。

以下に代表的な施設を示します。

■都市の広場機能と導入施設

機能	機能	代表的な施設	導入の基本的な考え方
市街地拠点機能	都市(地区)の拠点形成の場	-	都市内の立地により一定の役割が期待される。
交流機能	憩い・集い・語らいの場	滞留スペース プラザ、団体広場	都市特性や駅の特性に応じて導入を検討する施設
景観機能	景観形成の場	緑、親水空間 シンボル施設	基本的な導入施設 ※サービス機能については、広場周辺の状況に応じて判断。
サービス機能	公共的サービス提供の場	トイレ、ポスト 電話 BOX	
	情報提供の場	案内板	
防災機能	防災活動拠点の場	-	空間そのものが、防災活動拠点の場となる。

第1章 滝尾駅を取り巻く状況

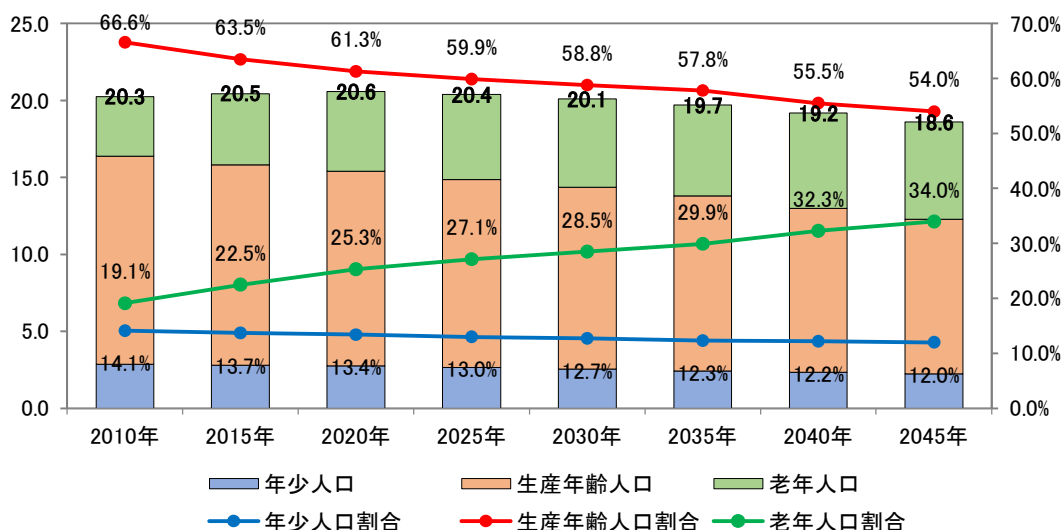
1. 滝尾駅周辺の概況
2. 滝尾駅の状況
3. 市民意向の把握

1. 滝尾駅周辺の概況

1-1. 人口動向

(1) 大分地区の人口推移

2015年(平成27年)の大分地区の人口は、20.5万人で本市の総人口の約42.9%を占めています。2045年(令和27年)の人口は、18.6万人まで減少する見込みで、減少率は約9.5%となっています。

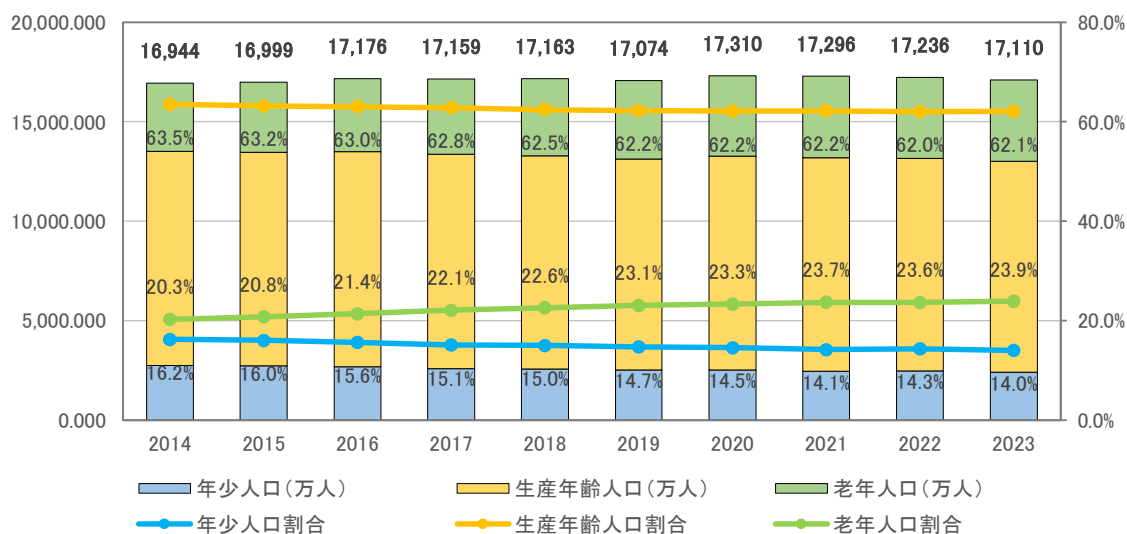


資料：大分市人口ビジョン(令和元年度修正版)

図-1.1 大分地区の人口推移

(2) 滝尾・森岡校区の人口推移

滝尾・森岡校区の2023年(令和5年)の人口は、2014年(平成26年)と比較して166人増加しており、増加率は約1.0%となっています。老年人口割合が増加する一方で、生産年齢人口割合と年少人口割合はともに減少傾向にあり、少子化が進んでいます。



資料：住民基本台帳(各年9月末)

図-1.2 滝尾・森岡校区の人口推移

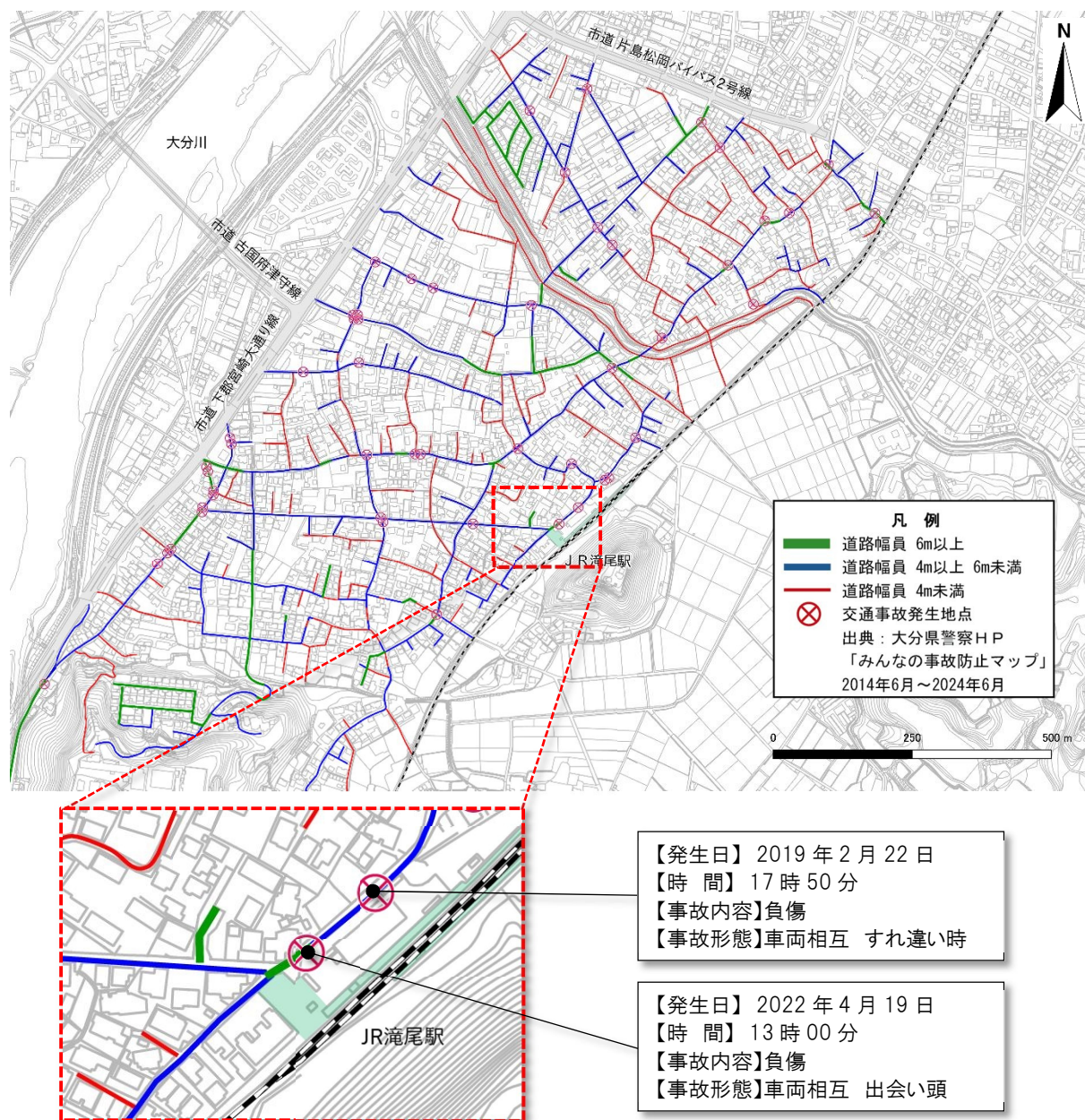
1-2. 交通環境

(1) 道路環境

基本構想の区域内(以下、「滝尾駅周辺地区」という)の主要な道路ネットワークは、市道下郡宮崎大通り線(都市計画道路萩原鬼崎線)や、市道片島松岡バイパス2号線(都市計画道路片島松岡線)を中心に構成されています。

JR滝尾駅周辺の道路幅員を見てみると、4m未満の狭あい道路が多く、次いで4m以上6m未満の道路が多くなっています。そのほか、交通事故が発生しやすい地点も多くみられます。

JR滝尾駅前に接続している道路の多くは4m以上6m未満の幅員であり、駅前周辺でも交通事故が発生しています。



資料：おおいたマップ、大分県警察 HP(2014年6月～2024年6月)

図-1.3 道路ネットワークの状況

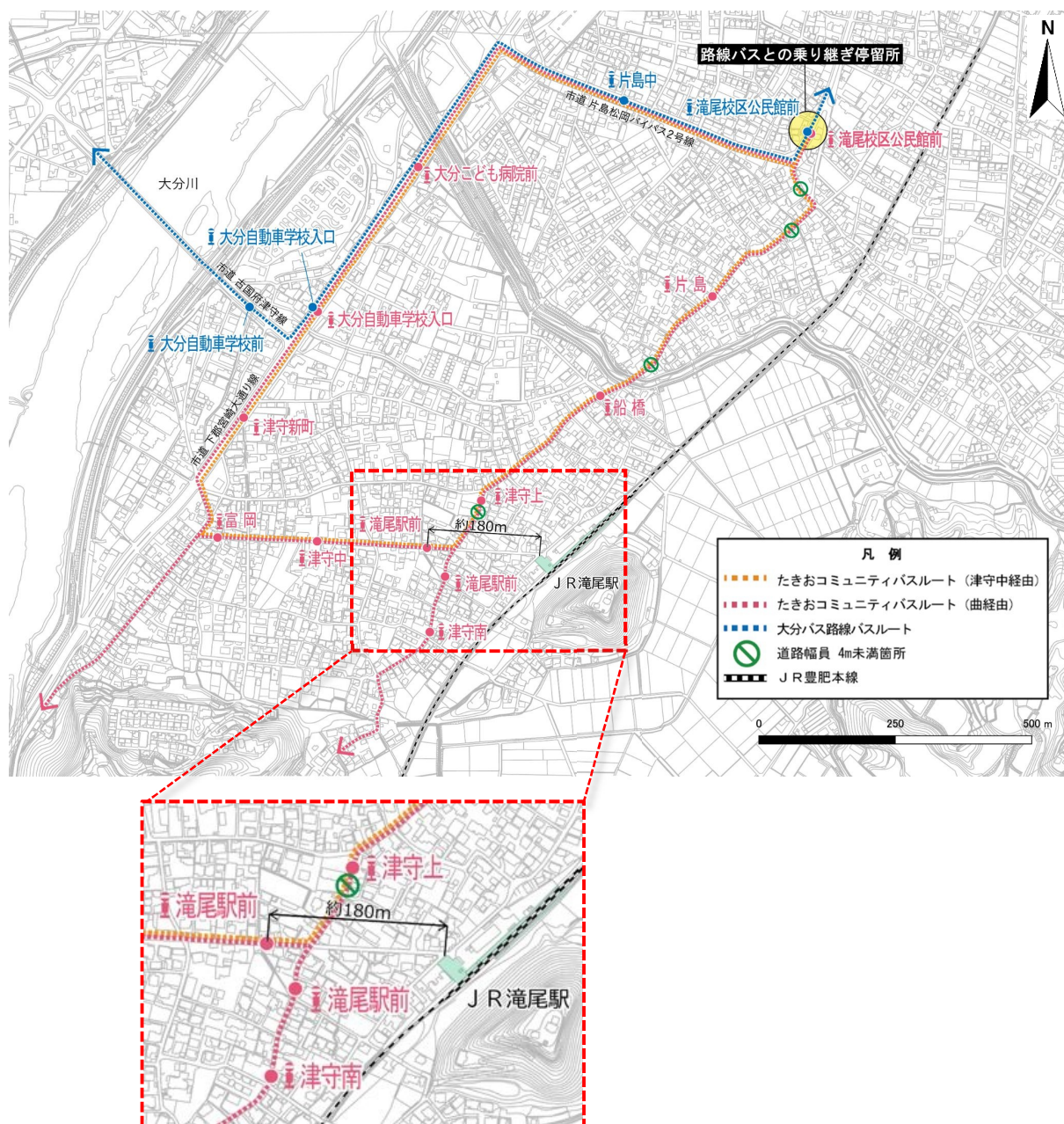
(2) 公共交通ネットワーク

公共交通ネットワークについては、豊肥本線はJR滝尾駅を経由し、上りがJR大分駅方面、下りがJR熊本駅方面へと結ばれています。

路線バスは、市道下郡宮崎大通り線や市道片島松岡バイパス2号線を運行していますが、JR滝尾駅とは接続されていません。

また、たきおコミュニティバスは、滝尾駅周辺地区内を運行していますが、こちらもJR滝尾駅とは接続されていません。

なお、JR滝尾駅の最寄りのコミュニティバス停留所までは約180mの距離があります。



資料：大分市 HP、大分バス時刻表(2024 年 4 月)

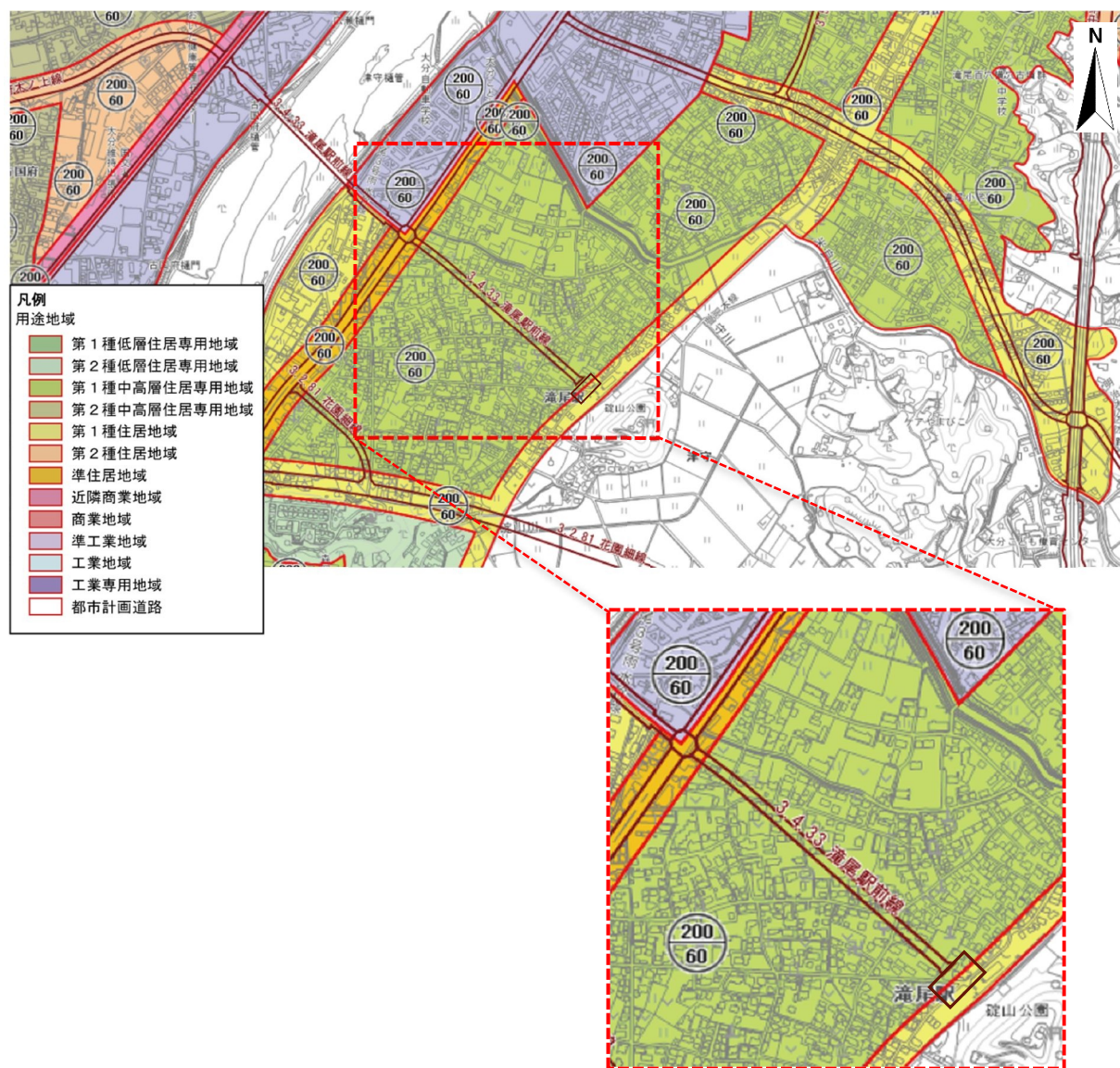
図-1.4 公共交通ネットワークの状況

1-3. 都市計画法規制（用途地域）の状況

滝尾駅周辺地区の用途地域は、JR滝尾駅の北西側の住宅地には主に第1種中高層住居専用地域が指定されており、豊肥本線沿線には、第1種住居地域が指定されています。

2024年(令和6年)3月25日に告示された都市計画の変更では、(都)滝尾駅前線及び滝尾駅前広場の沿道30mにおいて、都市計画道路等の整備後の土地利用を誘導するため、第1種中高層住居専用地域から第1種住居地域に変更され、店舗や事務所などの建築制限が緩和されました。

●2024 年(令和 6 年)2 月の状況



資料:おおいのマップ(2024 年 2 月時点)

図-1.5 用途地域の指定状況(変更前)

●2024 年(令和 6 年)4 月の状況

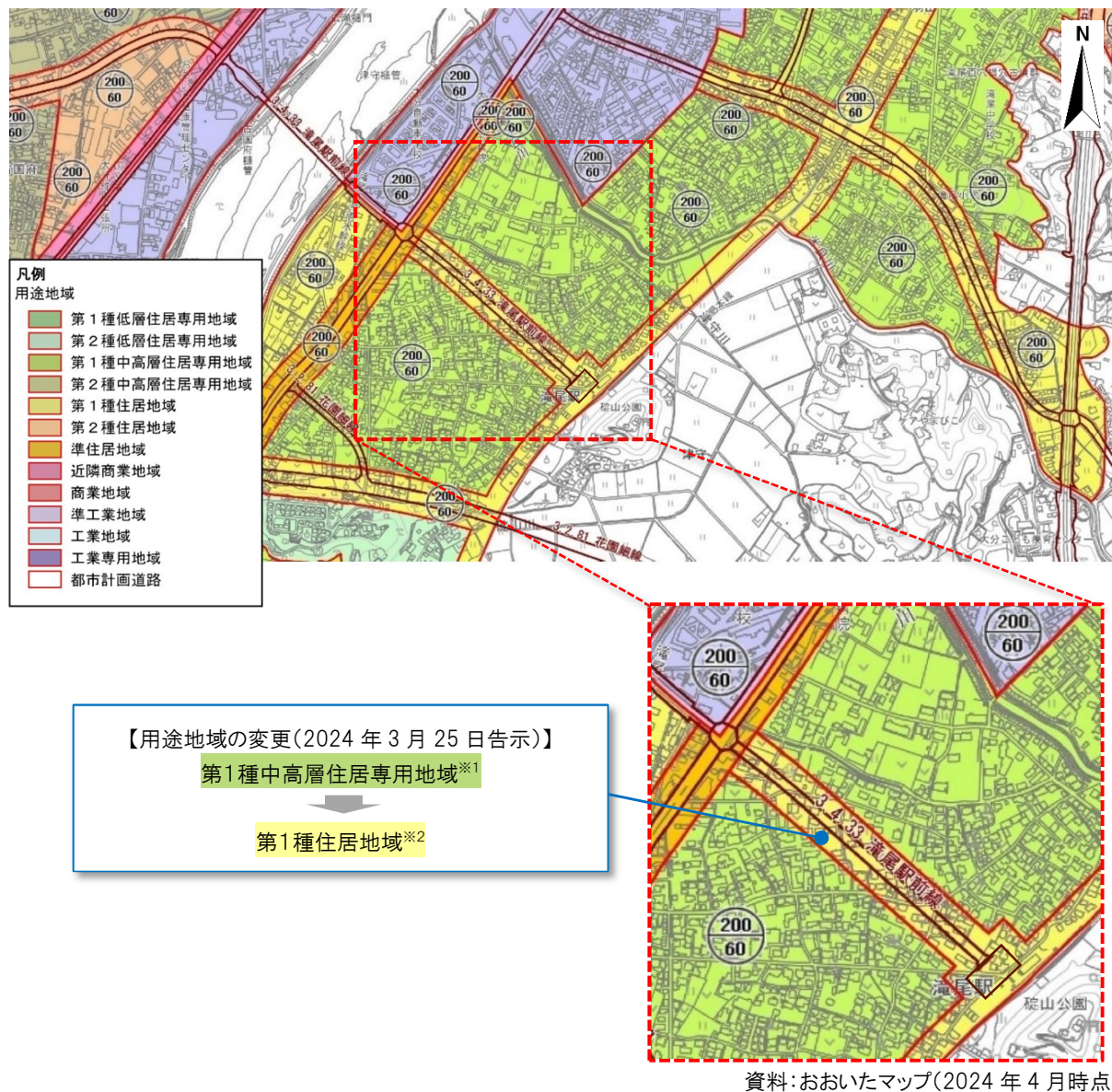


図-1.6 用途地域の指定状況(変更後[2024 年 3 月 25 日告示 都市計画変更])

※1 第1種中高層住居専用地域:

主に中高層住宅の良好な環境を守るための地域です。

病院、大学、500 ㎡までの一定の店舗(日用品販売店・喫茶店・物販店舗などに限る)などが建てられます。

※2 第1種住居地域:

住居の環境を守るための地域です。

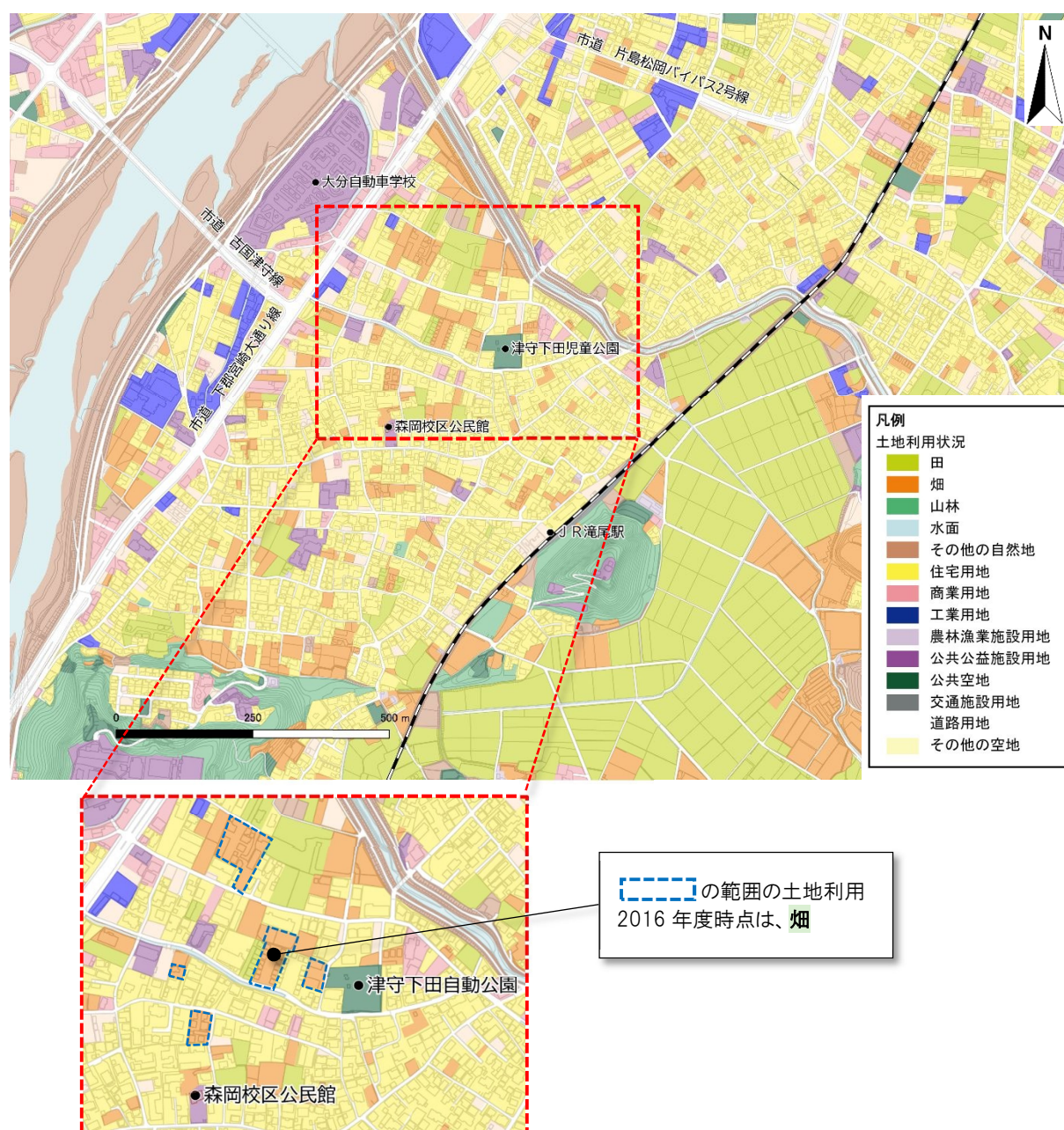
3,000 ㎡までの店舗、事務所、ホテルなどが建てられます。

1-4. 土地利用の状況

JR滝尾駅の北西側をはじめ、滝尾駅周辺地区のほとんどは住宅用地となっており、駅の南東側は市街化調整区域※³で、耕作地としての土地利用が主体となっています。また、商業用地は、市道下郡宮崎大通り線沿いに多く見られます。

2016年度(平成28年度)と2022年度(令和4年度)の土地利用現況を比較すると、滝尾駅周辺地区において、田畑から住宅用地への転用が進んでいます。この傾向から、都心部との近接性や、落ち着いた住環境などを求めて、滝尾駅周辺地区内の住宅開発が進行している状況が見受けられます。

●2016 年度(平成 28 年度)



資料：都市計画基礎調査(2016 年度)

図-1.7 土地利用現況(2016 年度)

●2022 年度(令和 4 年度)



資料：都市計画基礎調査（2022 年度）

図-1.8 土地利用現況(2022 年度)

※3 市街化調整区域：

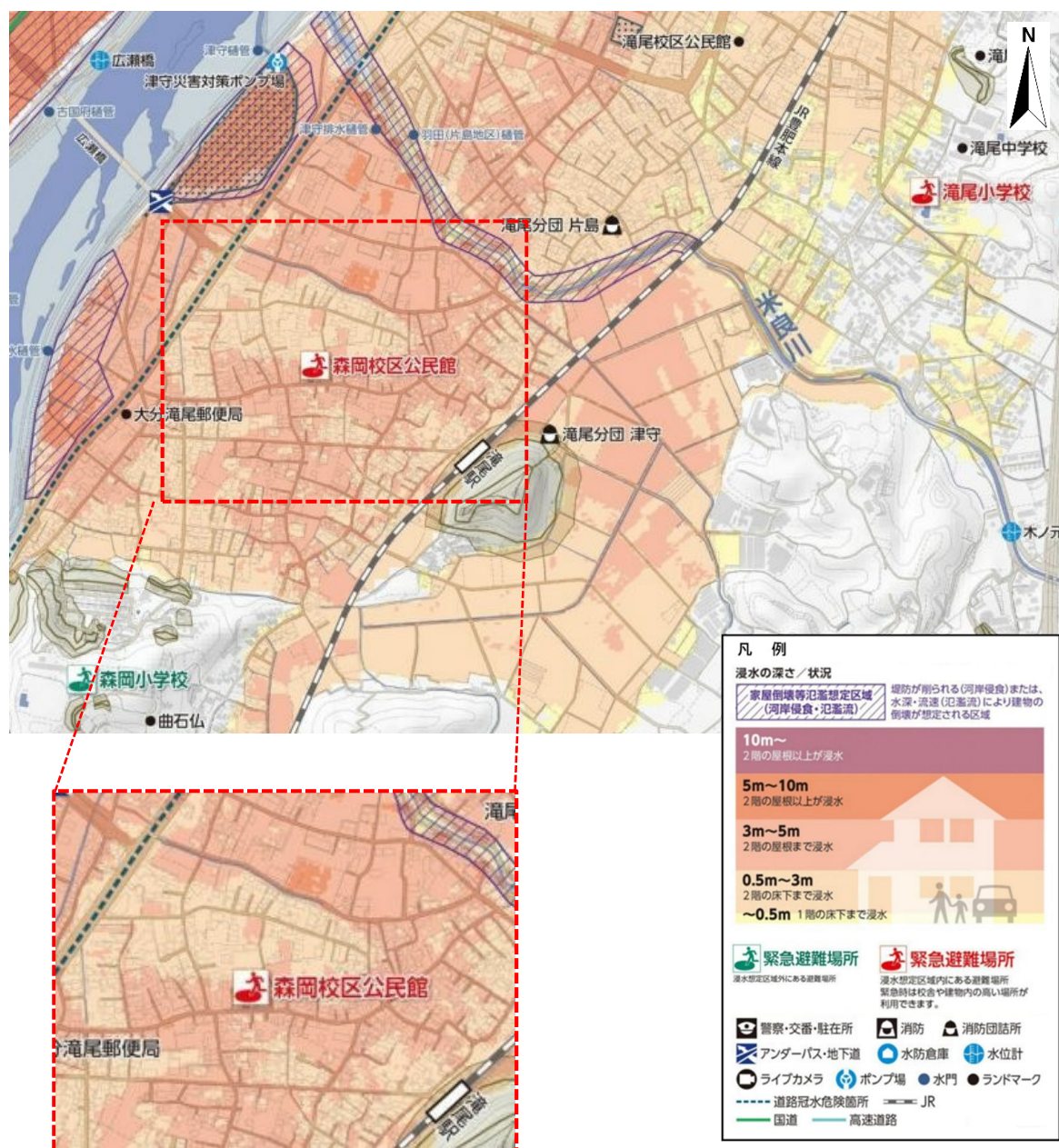
市街化を抑制する区域を指し、用途地域の指定はありません。

1-5. ハザードエリアの状況

(1) 洪水浸水想定区域

洪水浸水想定区域(想定最大規模※4)は、滝尾駅周辺地区のほぼ全域にわたっており、洪水時には3m～5mの浸水(2階の屋根まで浸水)が想定されています。

一級河川大分川沿岸や大分川水系米良川沿岸では、「家屋倒壊等氾濫想定区域」が指定されている区域があります。



資料：大分市ホームページ(洪水ハザードマップ)

図-1.9 洪水浸水想定(想定最大規模)の状況

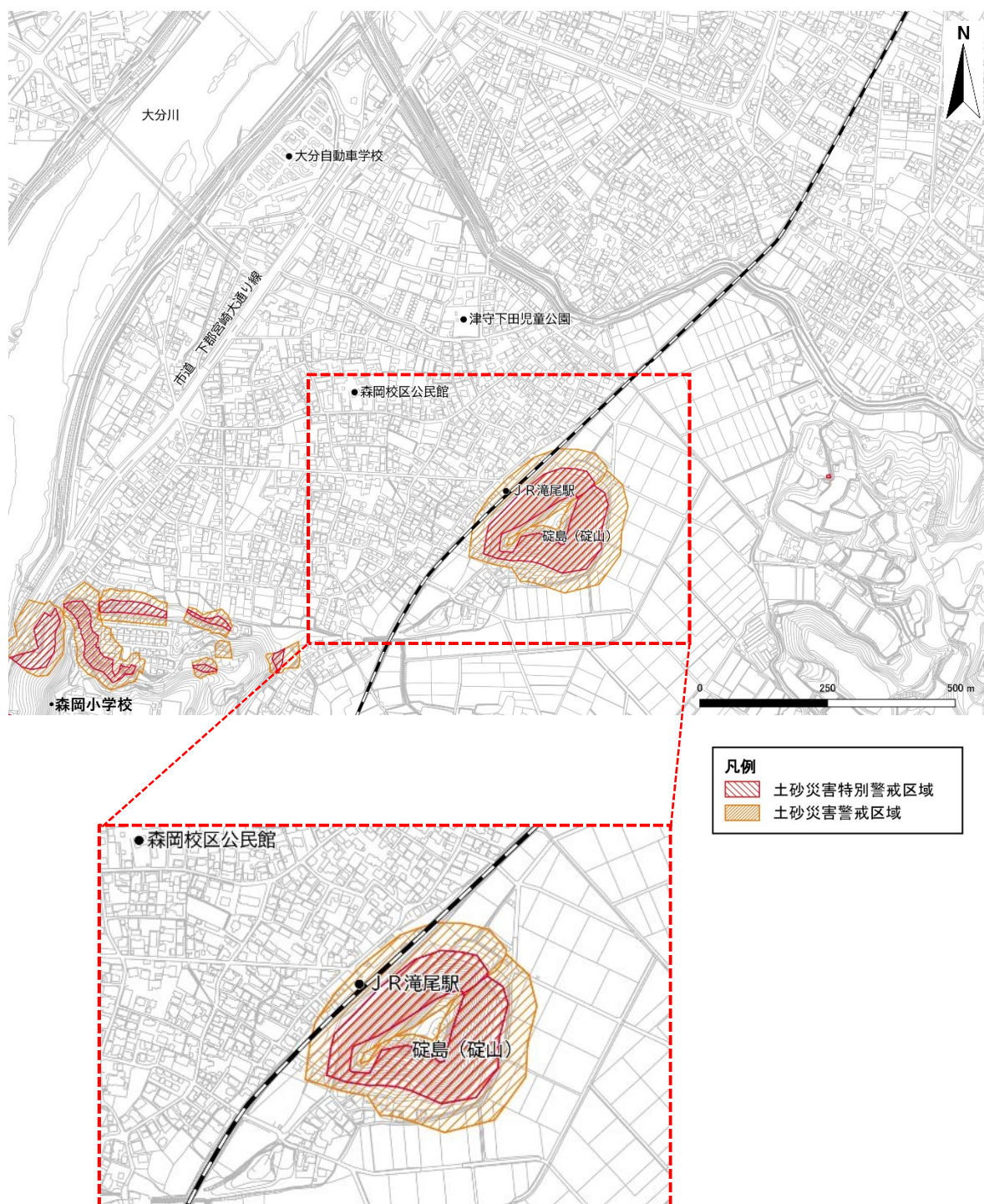
※4 想定最大規模：

1000年に1回程度の発生が想定されている降雨規模(想定し得る最大規模の降雨)。

1000年毎に1回発生する周期的な降雨ではなく、1年の間に発生する確率が1/1000(0.1%)以下の降雨です。

(2) 土砂災害特別警戒区域等

土砂災害に関するハザードエリアは、碓島(碓山)及び森岡小学校周辺にまとまって、指定されています。



資料: 大分市土砂災害に関するハザードエリア

図-1.10 土砂災害に関するハザードエリアの状況

1-6. 歴史文化資源の状況

滝尾駅周辺地区には、県指定文化財である曲石仏付双塔(五輪塔)・磨崖連碑※⁵をはじめ、参勤交代のために整備された旧肥後街道等の歴史文化資源が点在しています。

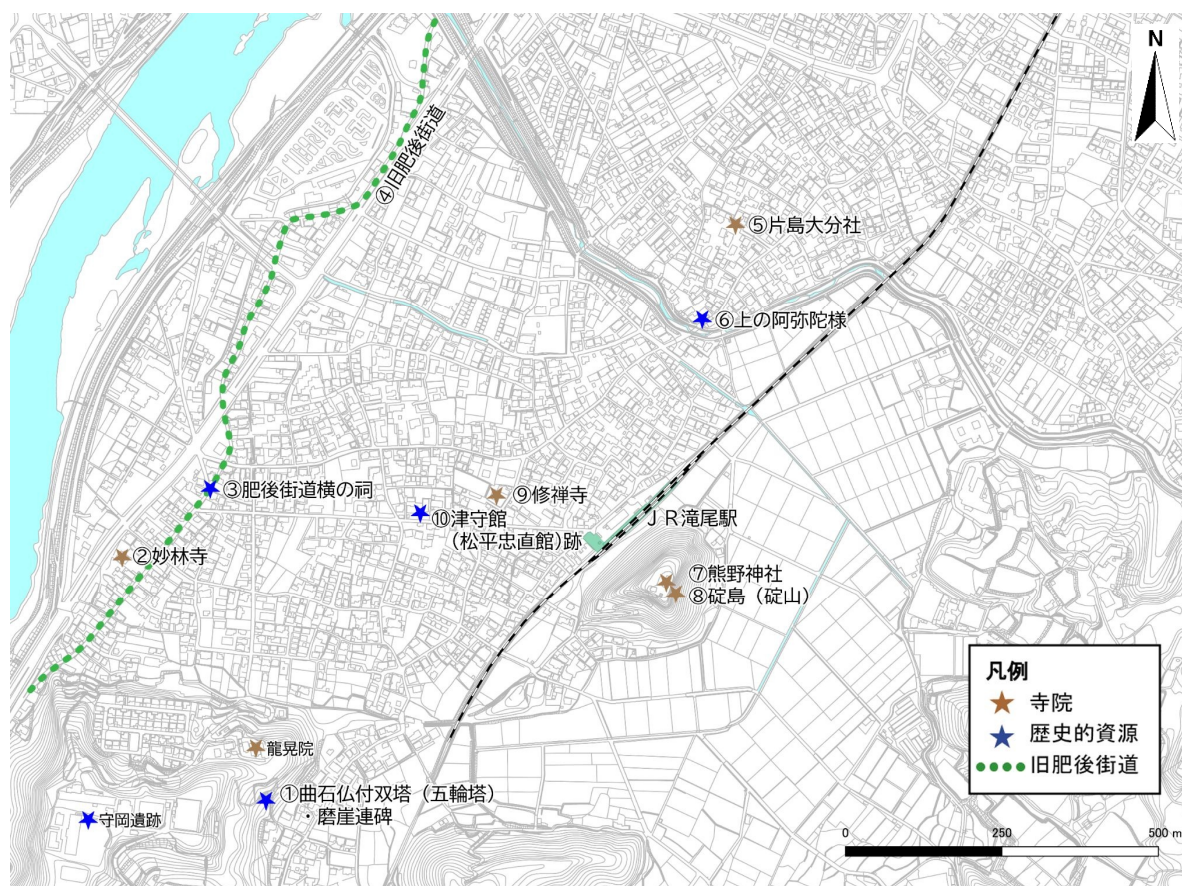
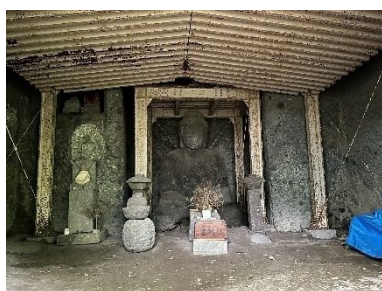


図-1.11 歴史文化資源



①曲石仏付双塔(五輪塔)・磨崖連碑※5



②妙林寺



③肥後街道横の祠



④旧肥後街道



⑤片島大分社



⑥上の阿弥陀様



⑦熊野神社



⑧碓島(碓山)



⑨修禅寺



⑩津守館(松平忠直館)跡

※5 曲石仏付双塔(五輪塔)・磨崖連碑【県指定文化財】:

森岡丘陵の中腹南面2ヶ所の石窟に彫られている。

最大の石窟には像高約3mの丸彫りの伝釈迦如来像が安置され、入り口には持国天、多聞天が彫られており、もう一方の石窟には三尊像が彫られている。

平安時代末期から室町時代に造立されたものと考えられる。

伝釈迦如来像は寄木造の手法をとっており、石仏では例のないものである。

2. 滝尾駅の状況

2-1. 鉄道の利用状況

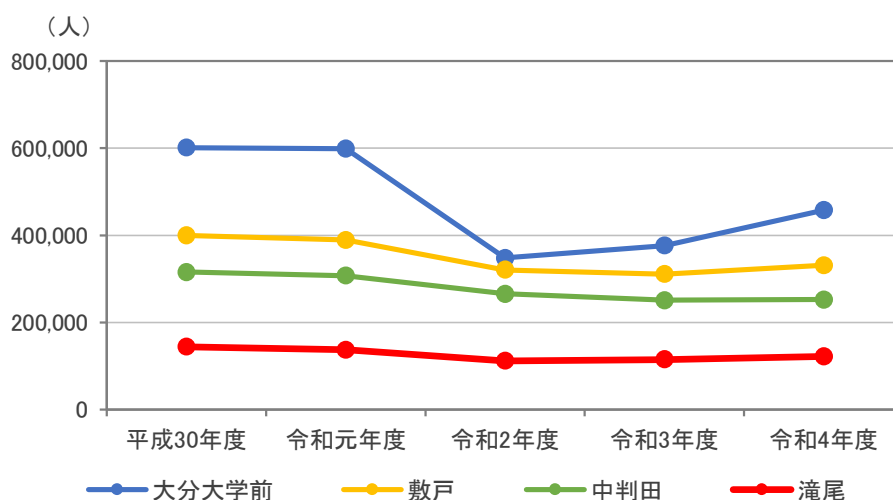
JR滝尾駅は、大分市内で4番目に乗車人員が少なく、2022年度(令和4年度)における乗車人員は121,910人、日平均乗車人員は334人です。

乗車人員の推移を見ると、2018年度(平成30年度)から減少傾向にあり、2022年度(令和4年度)は2018年度(平成30年度)と比較して約15%減少しています。

駅名	路線	年間乗車人員(人)				
		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
大分	日豊本線	6,959,455	6,810,900	4,836,250	5,009,260	5,630,855
大在	日豊本線	794,970	803,000	631,450	652,985	719,780
鶴崎	日豊本線	714,670	701,530	564,290	562,100	614,295
高城	日豊本線	642,035	627,435	497,130	513,555	538,740
坂ノ市	日豊本線	428,145	445,300	376,680	381,790	400,770
大分大学前	豊肥本線	600,790	598,235	347,845	376,315	457,710
敷戸	豊肥本線	399,310	389,090	320,835	310,615	331,055
中判田	豊肥本線	315,360	307,330	265,720	250,755	252,215
牧	日豊本線	263,895	265,720	224,475	225,205	235,790
南大分	久大本線	200,020	197,100	173,740	178,850	190,895
賀来	久大本線	206,225	199,655	153,665	151,840	162,790
古国府	久大本線	173,010	175,930	147,095	154,030	165,345
西大分	日豊本線	177,025	175,200	144,175	153,300	170,090
滝尾	豊肥本線	144,175	137,240	112,055	115,340	121,910
豊後国分	久大本線	124,100	122,640	95,995	98,915	106,215
幸崎	日豊本線	113,150	111,325	94,900	不明	不明
竹中	豊肥本線	不明	不明	不明	不明	不明

資料：大分市の統計(令和5年版)

図-1.12 大分市内における鉄道駅の年間乗車人員



資料：大分市の統計(令和5年版)

図-1.13 豊肥本線の各鉄道駅別乗車人員の推移(竹中駅を除く)

b. 駅利用者の交通手段

ピークの1時間(7:20~8:20)にJR滝尾駅に停車する電車は、上り(JR大分駅方面)は3本、下り(JR熊本駅方面)は2本となっています。この1時間の駅利用者は、乗車利用は85人、降車利用は27人となっています。駅利用者の主な交通手段としては、乗車、降車ともに自転車・徒歩となっています。

① 乗車利用者の交通手段

乗車利用の85人の駅までの交通手段としては、自動車は6人(7%)、自転車は49人(58%)、徒歩は30人(35%)となっています。

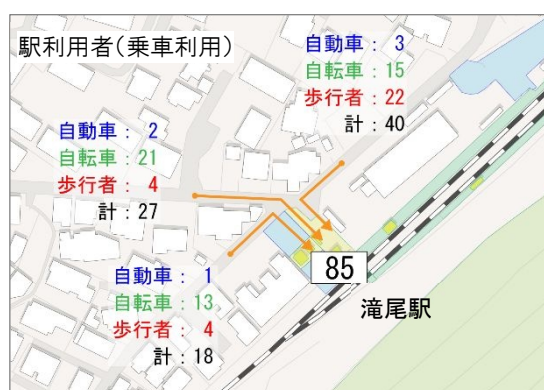


図-1.17 乗車利用者の交通手段

② 降車利用者の交通手段

降車利用の27人の駅からの交通手段としては、自動車は0人(0%)、自転車は14人(52%)、徒歩は13人(48%)となっています。

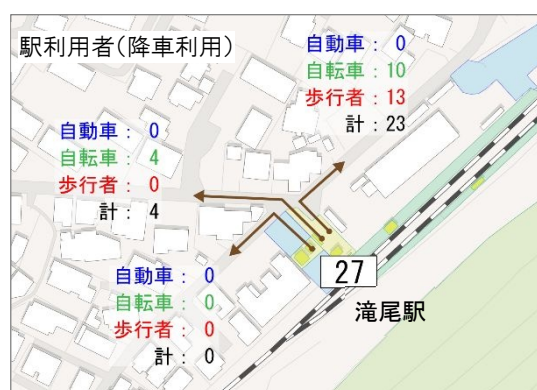


図-1.18 降車利用者の交通手段

(2) 駐輪場の利用状況

調査当日の駐輪場利用は最大で114台(9:30時点)となっています。駐輪場区域外への駐輪も見られます。

なお、調査開始時点(6:30)は、80台が駐輪されており、34台増加しています。



図-1.19 駐輪場の利用状況

駅構内の機能

写真①(アプローチ)



JR 滝尾駅の改札までにはアプローチがあります。

写真②(改札)



現在は無人駅として運用されており、改札のみの簡易な駅舎となっています。

写真③(西側ホーム)



駅構造は、相対式ホーム 2 面 2 線を有する地上駅となっています。ホームには、屋根付きの待合所(5 人程度利用可能)があります。

写真④(東側ホーム)



屋根付きの待合所(5 人程度利用可能)があります。

写真⑤(構内踏切)



互いのホームは構内踏切で連絡されており、改札から東側のホームに行くためには線路を横断する必要があります。

写真⑥(滝尾通信配線室)



JR 滝尾駅の通信設備などを収容した建物があります。

写真⑦(自動販売機)



自動販売機が設置されています。

写真⑧(掲示板)



掲示板が設置されています。

写真⑨(公衆電話)



公衆電話ボックスがあります。周辺が舗装されておらず、使いにくい状況となっています。

周辺道路

写真⑩(市道 津守9号線)



幅員 4.0m以上 6.0m未満となっています。

写真⑪(市道 津守富岡線)



幅員 4.0m以上 6.0m未満となっています。

写真⑫(市道 津守碓山1号線)



幅員 4.0m以上 6.0m未満となっていますが、その先が狭あいになっています。

写真⑬(駅前の交差点)



駅前広場の計画区域内には、3つの市道が交わる交差点があります。

駅周辺の機能

写真⑭(市道側駐輪場)



約40台の自転車が収容可能となっています。

写真⑮(駅側駐輪場)



約65台の自転車が収容可能となっています。

写真⑯(月極駐車場)



JR 滝尾駅から約100m離れた位置に月極駐車場(33台分)があります。

3. 市民意向の把握

地域住民の意見を反映するため、ワークショップ(全2回)を開催しました。

また、自治会長、滝尾地区連合自治会や地元代表者などで構成した地元会議を開催し、意見交換を行いました。

地域住民より出された意見の内容は下記の通りです。

(1) 地域住民が認識する問題点

【交通】

- 駐車場がない。
- 駐輪場の管理が行き届いてない。
(放置自転車)
- 駐輪場に屋根がなく、雨で濡れる。
- バス停がなく、バスとの乗り換えがしづらい。
- 車の乗降スペースがなく、送迎にくい。

【拠点】

- 野菜等を直売できる場所がない。
- 駅の近くに会社がない。
- 駅の近くに保育園等の子育て支援機能がない。
- 近くで遊んでいるときにちょっと食べたい。
- 駅の近くに買い物できる場所がない。

【交流】

- 駅前でゆっくりするスペースがない。
- イベントや情報発信等の自由に使える空間がない。
- 子どもの遊具やこどもルーム、育児支援施設がない。

【景観】

- ブロンズ像や樹木等、地区をイメージするシンボルがない。
- にぎわいがなく、夜間に暗いなど景観的にさみしい。

【サービス】

- 時計がない。
- トイレがない。

【防災】

- 街灯が少なく、駅周辺が暗い。
- 災害時の備蓄倉庫がない。
- 駅周辺の道路が狭く、緊急車両が入りにくい。

(2) 地域住民が駅前広場に求めること(ニーズ)

【前広場で実際にしたいこと】

- 子どもたちに青空授業がしたい。
- 子どもと広場で遊びたい。
- 簡単なイベントがしたい。
- フリーマーケットなどのイベントがしたい。
- ドックランで犬を遊ばせたい。
- 散歩したい。
- 友達と会ったり集まったりして話したい。
- 移動販売など
(朝市などを開催して売り買いしたい。)

第2章 滝尾駅周辺の課題

1. 滝尾駅周辺の問題点と課題の整理

1. 滝尾駅周辺の問題点と課題の整理

「第1章 滝尾駅を取り巻く状況」では、滝尾駅周辺の概況、滝尾駅の状況、市民意向の把握などを通じて滝尾駅周辺の現状を整理しました。

この章では、駅前広場を構成する「交通空間」と「環境空間」、および「駅周辺」の問題点と課題について整理します。

(1) 交通空間に関する課題

交通 問題点	課 題
・ 車の乗降スペースがなく、送迎しにくい。 ・ タクシー乗降場がなく、タクシーを利用しづらい。 ・ 車両が転回できるスペースがない。 ・ 時間貸し駐車場がない。 ・ 駐輪場は未舗装で、十分な管理が行き届いていない。 ・ 鉄道から他の交通への乗り換えがしづらい。 ・ 車いす等での移動がしづらい。	★交通機能を確保する施設の整備 乗降場（タクシー、自家用車等）、ロータリー、歩道など、交通機能を確保する施設の整備が求められています。また、整備する施設は、バリアフリー化が求められています。 ★交通手段相互の乗り換えを円滑化 鉄道から他の交通手段への乗り換えが円滑にできる施設整備や配置が求められています。

(2) 環境空間に関する課題

交流 問題点	課 題
・ イベントや情報発信等で自由に使える空間がない。 ・ 雨天時や夏場に待合や休憩できる場所がない。 ・ 休憩したり、座ってゆっくりするところがない。	★まちの拠点や住民の交流の場の整備 人々が休憩や交流する場、イベントや情報発信ができるような広場が求められています。
景観 問題点	課 題
・ ブロンズ像や樹木等、地区をイメージするシンボルがない。 ・ 駅周辺に街灯がなく、夜は暗い。	★景観的に優れた広場の整備 植樹、シンボル施設等の設置による、景観的に優れた広場が求められています。

サービス 問題点	課 題
・ 時計がない。 ・ トイレがない。 ・ 歴史など、情報発信ができる案内板がない。	★サービス機能の充実 公衆トイレ、案内板・サイン等の公共的サービスの充実が求められています。

(3) 駅周辺に関する課題

駅周辺 問題点	課 題
・ 駅周辺の道路が狭く、緊急車両等が入りづらい。 ・ 駅周辺は狭い道路が多く、駅までアクセスしづらい。	★地区全体の利便性向上 駅に円滑にアクセスできる幹線道路の整備や、商業施設・子育て支援施設の立地など、生活利便性を高める土地利用の促進が求められています。

WS(ワークショップ)や地元会議でいただいた声を踏まえ、次のように課題を整理しました。



図-2.1 滝尾駅前広場の課題図

第3章 滝尾駅前広場の整備方針

1. 滝尾駅前広場の将来像・基本方針

1. 滝尾駅前広場の将来像・基本方針

「第2章 滝尾駅前周辺の課題」で整理した解決すべき課題や、地域住民が駅前広場に求めるニーズなどを踏まえ、駅前広場の将来像と整備における基本方針を以下のように定めます。

1-1. 滝尾駅前広場の将来像

やすらぎとつながりを感じられるまちの交通・交流拠点

仕事や学校、買物を終えた帰路の途中、滝尾駅を降りると、まるで家にかえってきたようなやすらぎを感じられ、心がほっとする。休日には、穏やかにぎわいが生まれ、人とのつながりを感じられる。このような空間となることを目指し、滝尾駅前広場の将来像を設定します。

1-2. 基本方針

駅前広場を構成する「交通空間」と「環境空間」、また「駅周辺」に関する方針を以下のように定めます。

I. 駅利用者の利便性向上 -交通空間-

多様な交通手段を利用できるよう、交通結節機能を強化し、地区の玄関口として、誰もが安全で快適に利用できる駅前空間を創出します。

II. ゆとりを感じさせる 居心地よい空間の創出 -環境空間-

家族や友人などとゆっくりとくつろいだり、ペットと散歩したり、日常の中にゆとりを感じられる空間を創出します。

III. 豊かなコミュニティを育む 柔軟な活用ができる空間の創出 -環境空間-

地域で採れた食材を朝市で販売したり、マルシェやキッチンカーで買い物を楽しんだり、日常の中にささやかにぎわいを生み出す、誰もが活用しやすい空間を創出します。

IV. 駅を中心とした暮らし環境の向上 -駅周辺-

都心部との近接性と豊かな自然環境の両方を備える、滝尾駅周辺地区の居住環境としてのポテンシャルを最大限に引き出すため、駅前空間の充実や駅へのアクセス性の改善を図り、地域価値の持続的な向上を目指します。

1-3. 取組内容

基本方針を踏まえ、駅前広場整備における取組内容を以下のように定めます。

(1) 交通空間に関する取組

基本方針	取 組
I. 駅利用者の利便性向上	1) 交通結節機能を有する施設を整備します。(タクシー・バス・自家用車乗降場、自家用車短時間駐車場、駐輪場、車道など)
	2) 鉄道と各種交通の乗継ぎを円滑に行える施設配置および移動動線の確保を行います。
	3) 高齢者や障害のある人を含む、すべての人々にとって利用しやすい空間づくりを行います。

(2) 環境空間に関する取組

基本方針	取 組
II. ゆとりを感じさせる居心地よい空間の創出	1) 植樹、緑化等を図り、良好な景観を創出します。
	2) ベンチなどの休憩施設を設置します。
	3) 案内板や公衆トイレなどのサービス機能の充実を図ります。
	4) 夜間や雨の日、猛暑の日なども安心して駅を利用できるよう、待合環境の改善を行います。
III. 豊かなコミュニティを育む 柔軟な活用ができる空間の創出	1) 人々の交流の場を確保するため、空間利用の自由度が高く、柔軟に活用可能なオープンスペースを確保します。
	2) 駅前広場の利用者の安全性を確保するため、流入交通の調整を検討します。

(3) 駅周辺に関する取組

基本方針	取 組
IV. 駅を中心とした暮らし環境の向上	1) 駅前広場整備に伴い、多様な主体と連携し、本地区の顔となる駅前空間を実現します。
	2) 駅前広場へと接続する幹線道路を整備します。

第4章 滝尾駅前広場整備基本計画

1. 滝尾駅前広場の整備計画
2. 滝尾駅前広場の配置計画
3. 基本計画図
4. 計画実現に向けて

1. 滝尾駅前広場の整備計画

1-1. 滝尾駅の将来利用者数の推計

現状のJR滝尾駅の乗降人数は752人(2019年度)ですが、今後の人口動向、大分市人口ビジョンによる推計値、住民基本台帳を基にした滝尾・森岡校区の人口推移、駅勢圏の人口動向およびまちづくりの動向などを踏まえた結果、2045年(令和27年)には乗降人数は現状と同程度の760人程度になると推計しています。

現状値:752人(2019年度)^{※6} ⇒ 推計値:760人(2045年度)

※6 2020年度以降はコロナ禍の影響で乗降人数が減少しています。そのため、コロナ禍以前の2019年度の乗降人数を現状値として設定しています。

1-2. 滝尾駅前広場の交通空間に最低限必要な施設規模

前項で設定したJR滝尾駅の将来利用者数から「(1)パーソントリップ調査」「(2)交通量調査」「(3)大分市内の鉄道駅の事例」などを参考にして算出した施設の必要規模を比較し、滝尾駅前広場における最低限必要な施設規模を設定します。

	①バス 乗降場	②自家用車 乗降場	③タクシー 乗降場	④自家用車 短時間駐車場	⑤駐輪場 (自転車・バイク)
滝尾駅の現況	0	0	0	0	105
(1)パーソントリップ調査	0	4	0	16	62
(2)交通量調査	0	2	0	0	112
(3)市内の鉄道駅の事例	0	1	1	4	111
最低限必要な 施設規模	1	4	1	4	111

1-3. 滝尾駅前広場の導入施設

将来の駅利用者推計を基に算出された施設規模や、地元会議・ワークショップでの意見を踏まえて、以下の施設を導入します。

(1) 交通空間に導入する施設

■ 交通結節機能

① バス乗降場 → 1台

現在、JR滝尾駅周辺には路線バスが運行されていませんが、「たきおコミュニティバス」の運行状況(1時間に1台程度)を基に、1台分の乗降スペースを設けます。

② 自家用車乗降場 → 4台(障がい者用1台含む)

パーソントリップ調査の結果を基に、4台分の自家用車乗降場を設けます。

③ タクシー乗降場 → 2台

市内の鉄道駅の事例を基に、2台分の乗降場(乗車および降車スペース 各1台)を設けます。

④ 自家用車短時間駐車場(自動車整理場) → 4台

市内の鉄道駅の事例を基に、4台分の自家用車短時間駐車場を設けます。

なお、必要に応じて、有料化を含めた目的外利用の防止対策を検討します。

⑤ 駐輪場(自転車・バイク等) → 120台

市内の鉄道駅の事例を基に、111台分の駐輪場を確保します。さらに、既存の駐輪場では区域外の駐輪が見られることから、120台の駐輪スペースを設けます。

(2) 環境空間に導入する施設

■ 交流機能

① 多目的に利用できる広場

イベント等多目的に利用できるスペースを設けます。舗装の種類については、維持管理のしやすさを考慮して選定します。

② 休憩施設(ベンチ・あずまやなど)

日常的に集い・憩うことのできるベンチやあずまやなど、広場のスペースに応じた規模の休憩施設を設けます。

■ 景観機能

① 緑化などによる修景施設(樹木など)

広場やオープンスペースについては、緑化することで修景を図ります。また、配置する施設については、滝尾駅周辺地区の地域性に配慮したデザインとします。

■ サービス機能

① 案内板・サイン(歴史・地区の案内など)

滝尾駅周辺地区の歴史や文化などの情報を発信するため、案内板を設けます。

② 公衆電話

現状にある公衆電話を活用し、必要に応じて再配置の検討を行います。

③ 公衆トイレ

JR滝尾駅周辺には公衆トイレがなく、駅および駅前広場の利用者の利便性の向上を図るため、公衆トイレを設けます。規模については、利用者に応じた大きさとしします。

また、公衆トイレの配置については、JR九州の所有地を含めて検討するものとしします。

④ 給排水設備

イベント等、柔軟な空間利用が可能となるよう、給排水設備を設けます。

⑤ 電気設備

イベント等、柔軟な空間利用が行えるよう、電気設備を設けます。

(3) その他(導入の検討を行う施設)

① 防犯カメラ

防犯カメラの設置については、今後の広場の利用状況に応じて、検討するものとしします。

2. 滝尾駅前広場の配置計画

駅前広場内の施設配置は、交通結節機能や交流機能などの導入施設を配置するとともに、「駅前広場の整備ポイント」を踏まえ、利用者の利便性を考慮した配置を行います。

《駅前広場の整備ポイント》

■ 交通空間の整備ポイント

- 段差を解消し、バリアフリー化された安全で快適な歩行空間を整備する。
- 自家用車、タクシー、バスへの乗り換えのための乗降スペースを整備する。
- JR滝尾駅への送迎車両の待機スペースを整備する。
- 大型車両が通行できる車両通行路を確保する。
- 大型車が広場内で旋回できるスペースを確保し、ロータリーを計画する。
- 乗降スペースは、駅改札から近く、わかりやすい位置に配置する。
- 障がい者用乗降スペースは、駅に近い位置に配置する。
- 歩道の幅員は、歩行者が安全に通行できる十分な幅員を確保する。

■ 環境空間の整備ポイント

- 日常的な憩いやイベントなど、多目的に利用できる広場空間を確保する。
- 緊急時に一時的に避難できるオープンスペースを確保する。
- 広場スペースに応じたベンチやあずまやを整備する。
- 夜間でも安全に利用できる照明設備を整備する。

(1) 滝尾駅前広場の空間配置

交通結節機能を担う「交通空間」と、都市の広場としての役割を担う「環境空間」を、以下のよう



図-4.1 駅前広場の空間配置

(2) 車両の動線計画

車両の動線は、(都)滝尾駅前線からの流入・流出を主要な動線とし、駅前広場内を右回りの一方通行のロータリー形状とします。既存道路の車両動線については、環境空間の利用形態や周辺住環境を考慮した動線とします。



図-4.2 駅前広場の車両動線

(3) 歩行者の動線

歩行者の動線は、(都)滝尾駅前線とJR滝尾駅をつなぐ線を主要な動線とし、自家用車、バス、タクシーの待機スペースなどの滞留空間と交差しないように配置します。



図-4.3 駅前広場の歩行者動線

3. 基本計画図

滝尾駅前広場の整備計画および配置計画に基づき検討した基本計画図を下図に示します。

この基本計画図では、駅前広場への交通集中を防ぎ、安全な空間を確保するため、接続道路を主要動線である(都)滝尾駅前線のみとし、市道津守・富岡線などの既存道路から流入する交通を調整することを理想的な形として示しています。既存道路から流入する交通の調整については、「4. 計画に向けて」にて記述します。

また、ベンチや植栽、公衆トイレなどの環境空間に導入する施設の具体的な配置については、今後の基本設計や詳細設計でJRなどの関係機関との協議を通じて決定することとしています。

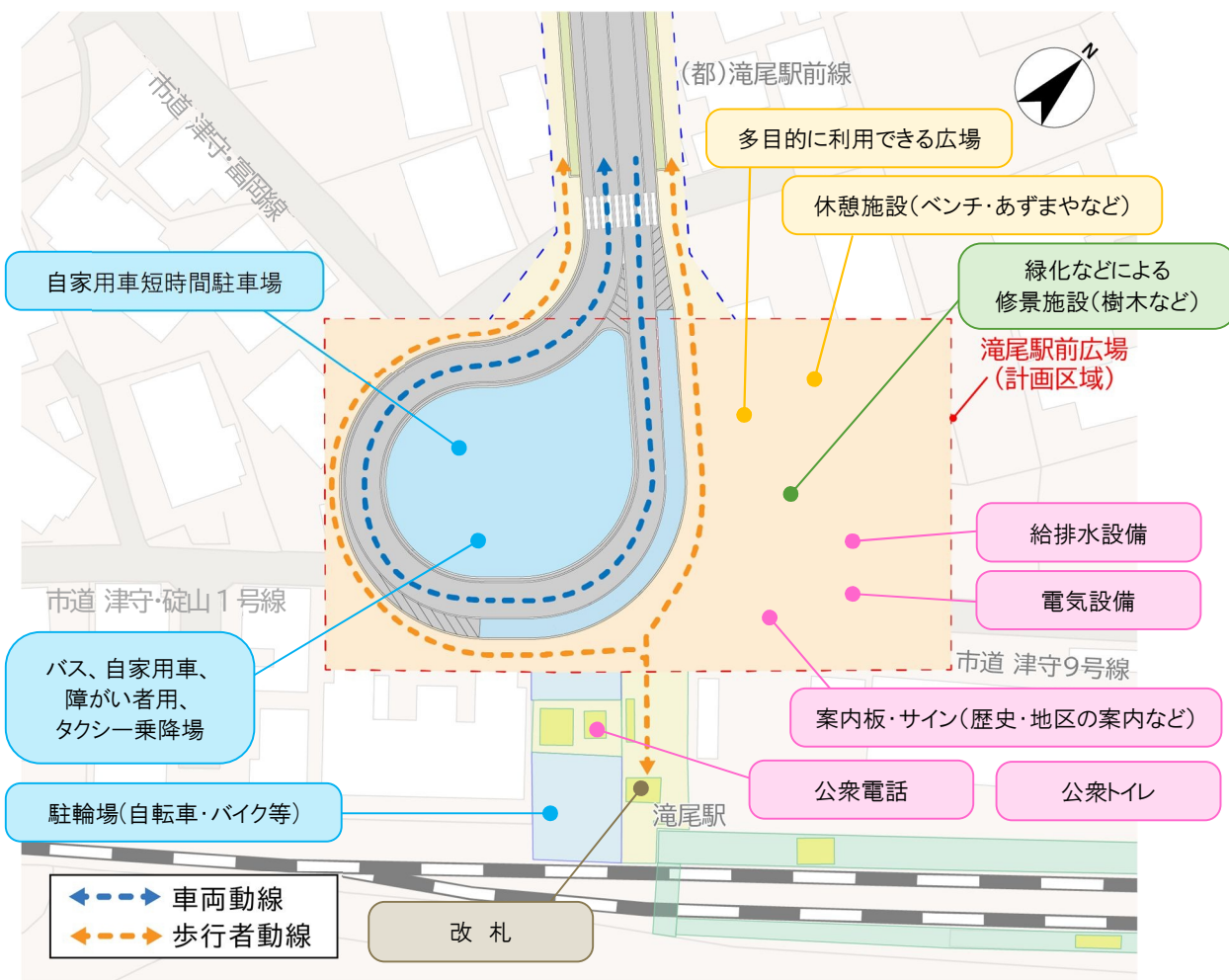
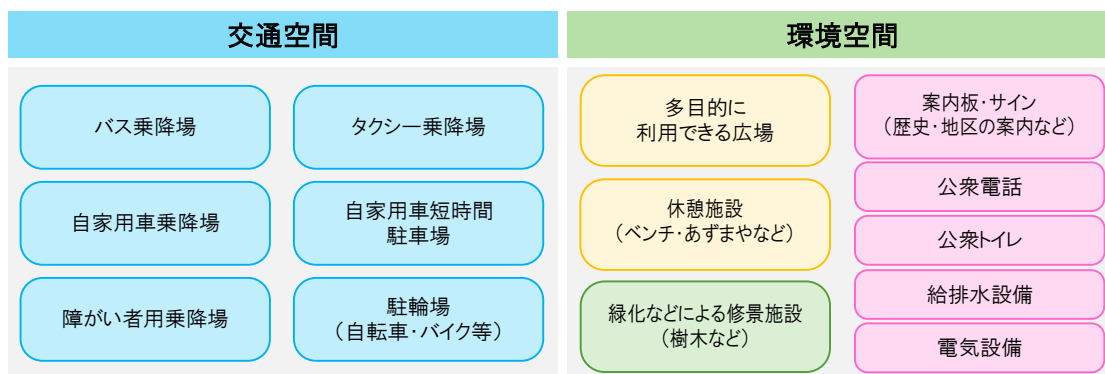


図-4.4 基本計画図



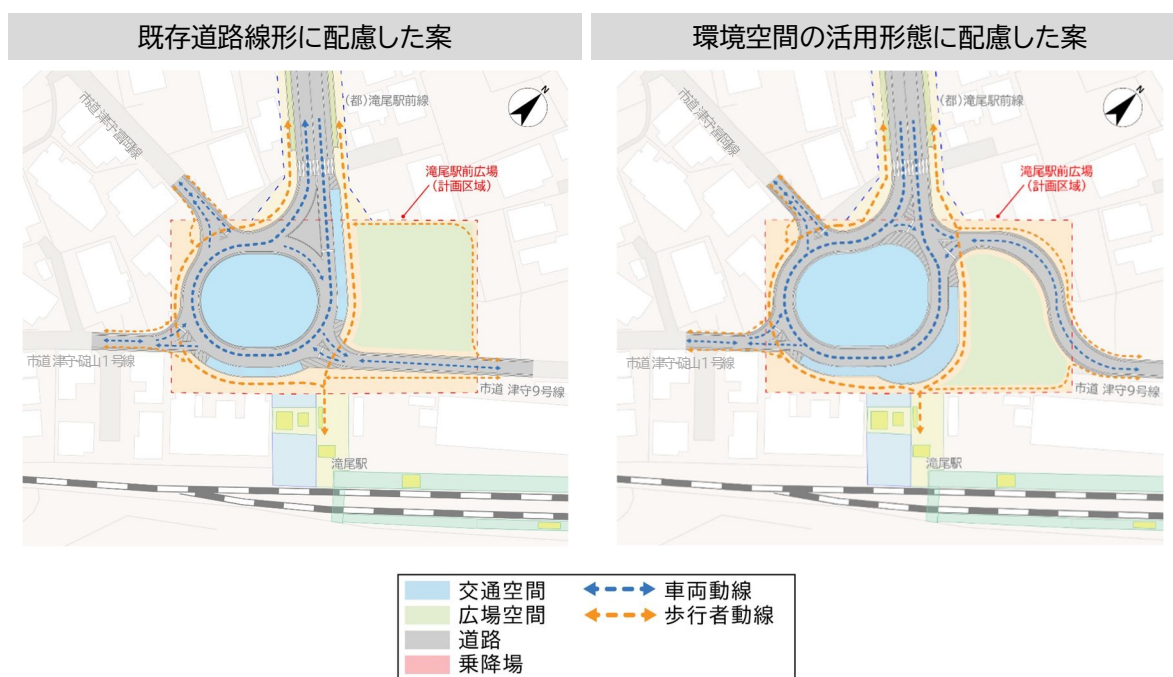
4. 計画実現に向けて

滝尾駅前広場計画区域には3つの既存道路が接続しており、駅前広場への交通集中を防ぎ、安全な空間を確保するため、既存道路から流入する交通を調整する必要があります。

なお、駅前広場への交通調整については、滝尾駅前広場および(都)滝尾駅前線の整備手法と関連があるため、今後、整備手法と併せて検討する必要があります。

参考として、既存道路を駅前広場に接続した場合の案を下図に示します。

【既存道路の接続方法（参考図）】



長所	・ 広場の形が良く、面積も広くとることができる。	長所	・ 駅利用者が道路を横断せずに広場を利用することができる。 ・ 市道 津守9号線の線形を見直すことで、通過交通量や速度の抑制ができる。
短所	・ 駅利用者が広場を利用する場合は道路を横断する必要がある。 ・ 市道 津守9号線の見通しが良くなり、通行速度があがるなどの懸念がある。	短所	・ 地域住民が広場を利用する場合は道路を横断する必要がある。 ・ 広場の形がいびつであり、道路に囲まれるため、施設配置等に課題がある。また、面積も狭くなる。 ・ 複雑な交差点ができる。

資料編

1. 上位・関連計画および関連事業
2. ワークショップ
3. 地元会議
4. 滝尾駅前広場の将来利用者数
5. 交通空間の施設規模
6. 滝尾駅前広場整備基本計画の策定経過

1. 上位計画・関連計画および関連事業

(1) 大分市総合計画「おおいた創造ビジョン 2024」第2次基本計画

策定年月		2020年(令和2年)3月
計画の期間		2020(令和2)年度～2024(令和2)年度
めざすまちの姿(都市像)		笑顔が輝き 夢と魅力あふれる 未来創造都市
基本的な政策		1 健やかでいきいきと暮らせるあたたかさあふれるまちづくり (市民福祉の向上) 2 豊かな心とたくましく生きる力をはぐくむまちづくり(教育・文化の振興) 3 安全・安心を身近に実感できるまちづくり(防災安全の確保) 4 にぎわいと活力あふれる豊かなまちづくり(産業の振興) 5 将来にわたって持続可能な魅力あふれるまちづくり(都市基盤の形成) 6 自然と共生する潤い豊かなまちづくり(環境の保全)
基本計画(各論)	2 豊かな心と たくましく生きる力 をはぐくむ まちづくり (教育・文化の 振興)	第2章 個性豊かな文化・芸術の創造と発信 >>>伝統的な芸能、行事の保存・継承 ●伝統的に地域で受け継がれてきた民俗文化財の保存・継承に努めます。 ●伝統芸能や地域固有の行事などを通じ、地域に対する愛着をはぐくむとともに、 市民相互の連携を深めて地域の活性化を図ります。
	5 将来にわたって 持続可能な魅力 あふれる まちづくり (都市基盤の 形成)	第1章 快適な都市構造の形成と機能の充実 第1節 計画的な市街地の形成 >>>風格ある広域都心と暮らしやすい地区拠点の形成 ●地域の自然・歴史・文化などの特性を生かした個性的で魅力のある暮らしやすい 地区拠点の形成を目指します。 >>>計画的な土地利用の推進 ●良好な市街地の形成を目指し、区画整理や住環境の整備、市街地再開発 など、地域の特性に応じた事業の推進を図ります。 ●市街地の整備等に当たっては、低・未利用地の有効活用など、効率的かつ 都市の健全な発展に資する土地利用を図るとともに、緑の保全や創造、景観、 防災などに配慮し、周囲の環境との調和、宅地等の安全性の確保に努めます。 >>>産業や生活を支える道路体系の確立 ●市域の均衡ある発展と経済・産業活動の活性化、交通渋滞の緩和などのため、 道路、橋梁の拡幅や新規橋梁、休憩施設等の整備を促進します。 >>>人にやさしく美しい都市空間の創造と整備 ●高齢者や障がいのある人をはじめとするだれもが円滑に移動ができ、安全・安心 に都市施設の利用ができるよう、段差の解消や点字ブロックの適正配置、 無電柱化の推進などユニバーサルデザインに配慮した都市空間の整備に取り 組めます。

	●災害時の延焼遮断帯や避難・輸送路、避難場所など災害に強い都市空間の整備を進めます。 ●風格のある質の高い都市景観づくりや地域の特性を生かした個性ある都市空間形成を推進するとともに、歴史・文化・芸術を生かした観光拠点の整備を推進し、回遊性の高い、魅力的で歩いて楽しい都市を創造します。 第2節 交通体系の確立 >>>公共交通ネットワークの構築 ●交通事業者等と連携し、各鉄道駅における駅前広場、駐車場、駐輪場などの整備をはじめ、新駅の設置、日豊本線の高速・複線化などを促進するとともに、バスやタクシーをはじめとする交通機関との乗り換えなど、交通結節機能の強化を目指します。 >>>公共交通の利便性の向上と利用促進 ●高齢者や障がいのある人等の移動制約者や訪日外国人旅行者、来訪者等の公共交通機関を利用した移動の安全性及び利便性の向上を図るため、市民、交通事業者、行政が一体となり、ハード・ソフトの一体的な取組のもと利用環境のユニバーサルデザイン化・バリアフリー化を促進します。 >>>自転車等利用環境の充実 ●国、県等の関係機関と連携し、連続性のある自転車走行空間の整備を進めるなど、自転車を安全・快適に利用できる環境づくりに努めます ●駐輪場の整備やシェアサイクルの導入、自転車利用者の安全対策に関する取組を進めます。
--	---

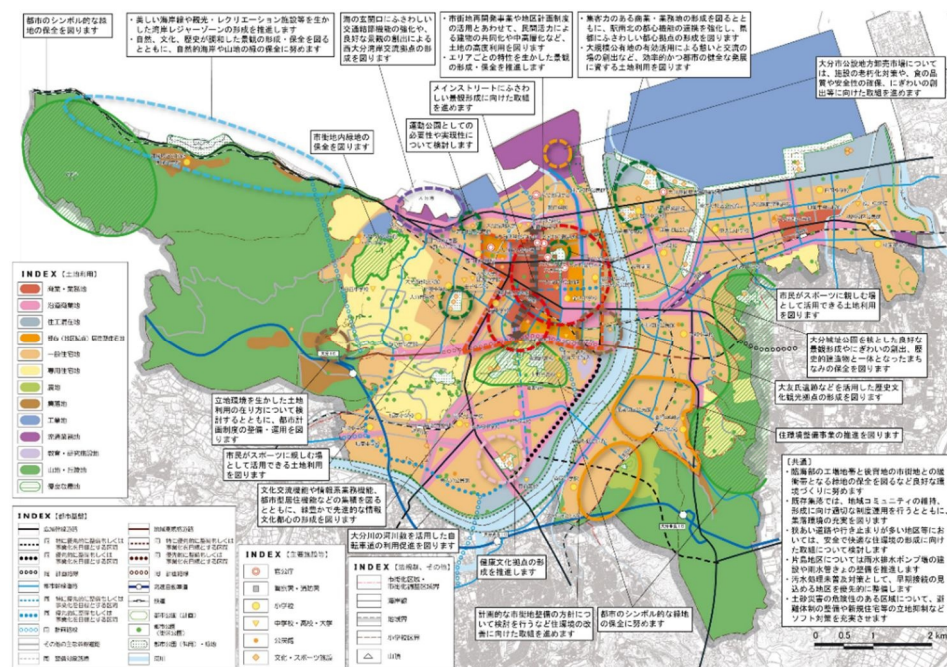
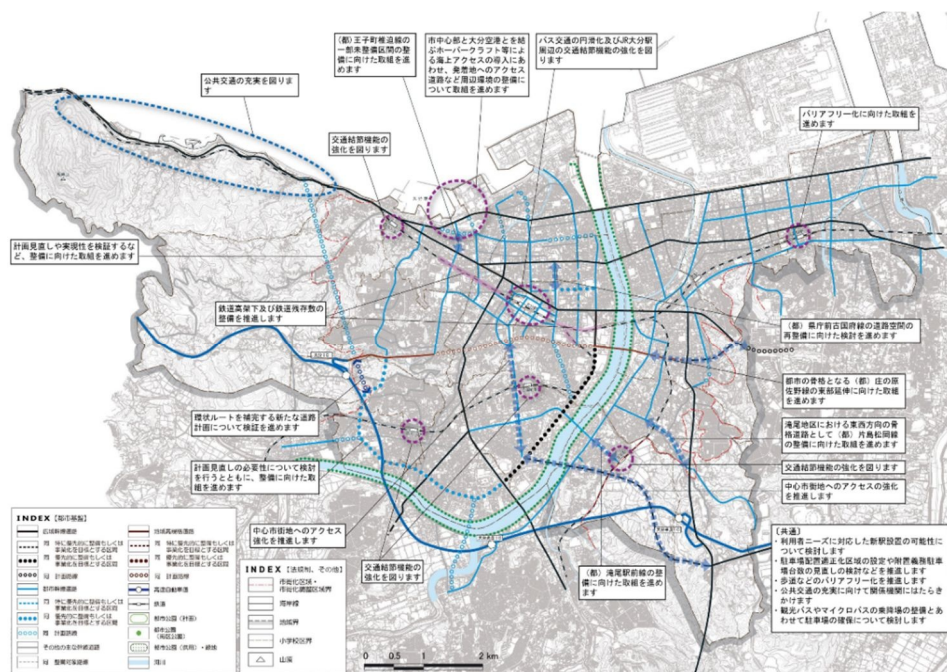
(2) 大分市都市計画マスタープラン

策定年月	2021 年(令和 3 年)3 月
目標年次	2040 年(令和 22 年) (中間年次:2030 年(令和 12 年))
将来都市像	笑顔が輝き 夢と魅力あふれる 未来創造都市
基本理念	1 健やかでいきいきと暮らせるあたたかさあふれるまちづくり 2 豊かな心とたくましく生きる力をはぐむまちづくり 3 安全・安心を身近に実感できるまちづくり 4 にぎわいと活力あふれる豊かなまちづくり 5 将来にわたって持続可能な魅力あふれるまちづくり 6 自然と共生する潤い豊かなまちづくり
都市づくりの基本方針	1 県都にふさわしい広域都心の形成 2 広域的な交流・連携やまちづくりを支える交通体系の確立 3 ライフスタイルを豊かにする快適で安全な住環境と地区拠点を中心としたコンパクトな都市づくり 4 都市の個性と風格を醸成し集客力を高める都市の魅力創出 5 人と自然とが共生できる豊かな自然環境の保全・活用と身近な緑、水辺の再生 6 自然災害に備える防災機能の向上と危機管理体制の確立 7 産学官民が協働して参画する都市づくりの推進
将来都市構造	■ 滝尾駅周辺: 拠点等の設定なし、<u>住宅市街地</u>としての位置付け ・住宅市街地開発事業や開発行為によって形成された住宅団地、従来からの住宅を中心とした土地利用を継承していく市街地については、地区の特性に応じた住環境の維持または改善を図ります。 

■まちづくりの目標

「緑あふれる広域都心の形成」

■大分地区のまちづくりの方針図

地区別構想
(大分地区)

■まちづくりの方針

1. 土地利用・市街地整備

- ・滝尾地区においては、住環境整備事業の推進を図るとともに、(都)滝尾駅前線の整備推進をはじめ計画的な市街地整備の方針について検討を行うなど住環境の改善に向けた取組を進めます。
- ・狭あい道路や行き止まりが多い地区等においては、安全で快適な住環境の形成に向けた取組について検討を進めます。

2. 交通施設

- ・東九州自動車道大分ICと市東部を結ぶ、都市の骨格となる(都)庄の原佐野線の東部延伸に向けた取組を進めます。
- ・市街地の外周を迂回し、都市の骨格となる環状道路について、計画の見直しや実現性の検証及び環状ルートを補完する新たな道路計画について検討を行うなど、国、県、市連携のもと、整備に向けた取組を進めます。
- ・中心市街地への円滑なアクセスを図るため、(都)上野丘南大分線、(都)花園細線の整備を推進します。
- ・滝尾地区における東西方向の骨格道路として、(都)片島松岡線の整備に向けた取組を進めます。
- ・JR 南大分駅、滝尾駅、西大分駅などにおいて、駅前広場やアクセス道路の整備など交通結節機能の強化を図ります。
- ・利用者ニーズに対応した新駅設置の可能性について検討します。
- ・歩道などのバリアフリー化を推進します。
- ・公共交通の充実に向けて関係機関にはたらきかけます。

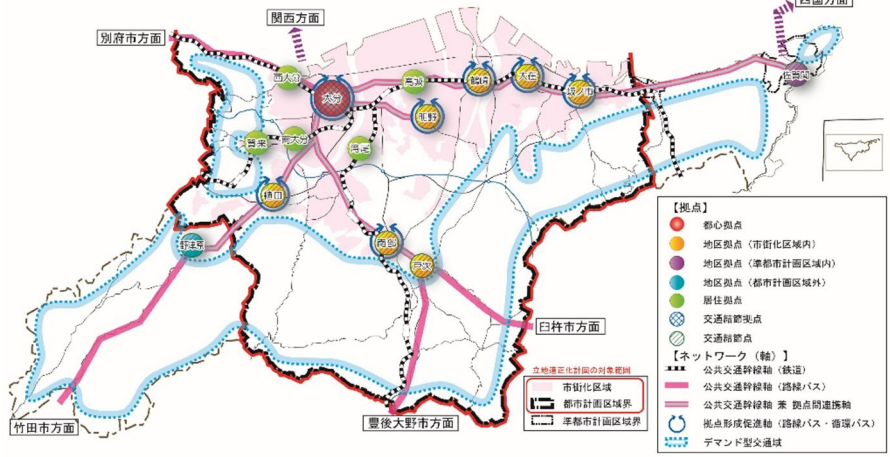
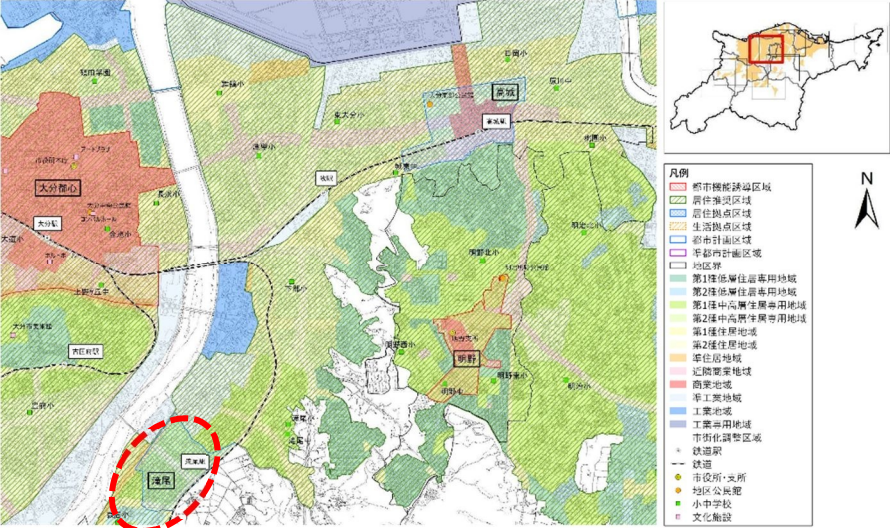
3. 環境・景観

- ・大分川の河川敷を活用した自転車道などの利用促進を図ります。

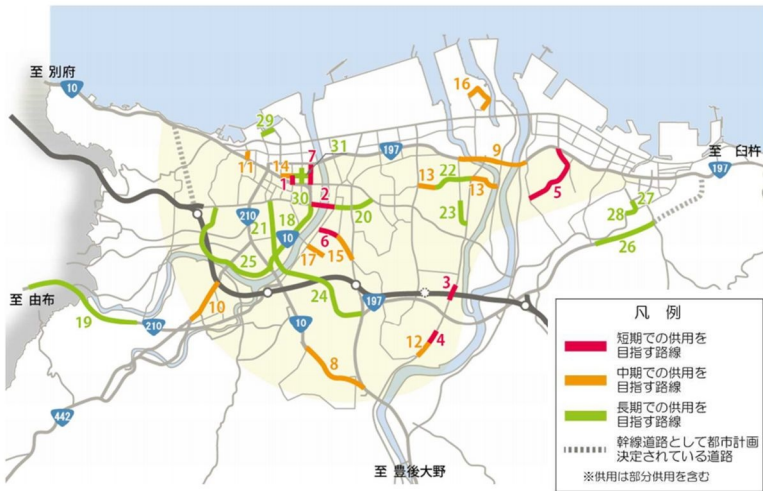
4. その他

- ・片島地区については、計画的な雨水排水ポンプ場の建設や雨水管きよの整備を推進します。
- ・汚水処理の未普及対策として、人口密度の高い地域や住民意向調査による早期接続の見込める地区を優先的に整備します。
- ・土砂災害の危険性のある区域については、避難体制の整備や新規住宅等の立地抑制などソフト対策を充実させます。

(3) 大分市立地適正化計画

策定年月	2024 年(令和 6 年)3 月
目標年次	2040 年(令和 22 年)
都市づくりの基本理念	元気・安心・快適な暮らしを支える 将来にわたって持続可能な『多極ネットワーク型集約都市』の形成
都市づくりの基本方針	1 県都にふさわしい風格とにぎわいのある大分都心拠点づくり 2 地域特性を生かした個性と魅力あふれる地区拠点づくり 3 だれもが安心して暮らし続けることができる居住環境づくり 4 交流とつながりをはぐむ公共交通ネットワークづくり
目指すべき 将来都市構造イメージ	
誘導区域及び 誘導施設	■居住推奨区域  ■誘導施設(都市機能誘導区域内において、立地を誘導すべき都市機能増進施設) ・都市機能誘導区域及び誘導施設の位置付けなし

(4) 大分都市圏総合都市交通計画

策定年月	2021 年(令和 3 年)3 月																			
目標年次	2035 年(令和 17 年)																			
都市圏における交通体系の将来像	将来にわたって安心して利用でき、 地域の活力と都市圏の発展を支える交通体系																			
基本方針	1 他都市圏との活発な交流・連携を支援する広域交通体系 2 拠点集約型まちづくりを支援する持続可能な交通体系 3 安全・安心な移動により生活を支える交通体系																			
県都・大分市の将来交通体系	■大分市における道路ネットワーク																			
	 注)短期:概ね 5 年程度、中期:概ね 10 年程度、長期:概ね 10～20 年程度																			
大分市における地区毎の主な公共交通施策 (大分地区)	■大分市における道路ネットワークに関する整備候補路線																			
	<table><tr><th>No</th><th>路線名</th><th>区間</th><th>供用を目指す時期</th></tr><tr><td>6</td><td>片島松岡線</td><td>大字片島～大字羽田 【(都)萩原鬼崎線～(都)下郡羽田線】</td><td>短期 (完了)</td></tr><tr><td>15</td><td>片島松岡線</td><td>片島松岡線 【(都)下郡羽田線～(都)下郡中判田線】</td><td>中期</td></tr><tr><td>17</td><td>滝尾駅前線</td><td>大字津守～大字津守 【滝尾駅～広瀬橋東交差点】</td><td>中期</td></tr><tr><td>24</td><td>花園細線</td><td>大字羽屋～大字片島 【国道 10 号～米良IC付近】</td><td>長期</td></tr></table>	No	路線名	区間	供用を目指す時期	6	片島松岡線	大字片島～大字羽田 【(都)萩原鬼崎線～(都)下郡羽田線】	短期 (完了)	15	片島松岡線	片島松岡線 【(都)下郡羽田線～(都)下郡中判田線】	中期	17	滝尾駅前線	大字津守～大字津守 【滝尾駅～広瀬橋東交差点】	中期	24	花園細線	大字羽屋～大字片島 【国道 10 号～米良IC付近】
No	路線名	区間	供用を目指す時期																	
6	片島松岡線	大字片島～大字羽田 【(都)萩原鬼崎線～(都)下郡羽田線】	短期 (完了)																	
15	片島松岡線	片島松岡線 【(都)下郡羽田線～(都)下郡中判田線】	中期																	
17	滝尾駅前線	大字津守～大字津守 【滝尾駅～広瀬橋東交差点】	中期																	
24	花園細線	大字羽屋～大字片島 【国道 10 号～米良IC付近】	長期																	
	■幹線交通網の強化策 ○鉄道沿線の地区拠点等との連携強化 ○鉄道駅周辺及びホーバークラフト発着地の交通結節機能強化 ○都市間交流を活性化する高速道路を活用した広域的バス運行の強化 ■地域内交通網の強化策 ○大分駅周辺におけるバスターミナルの設置及び機能の充実 ○ホーバークラフト発着地の二次交通の充実 ○地区内の回遊性を高める循環バスの導入																			

(5) 大分市地域公共交通計画

策定年月	2022 年(令和 4 年)3 月
目標年次	2022(令和 4)年度～2026(令和 8)年度
地域公共交通の 基本理念	市民・交通事業者・行政が連携し、だれもが快適に 移動できる公共交通ネットワークの構築を目指す。
本市における 地域公共交通の 基本方針	1 すべての人が住み慣れた場所で安心して生活できる公共交通の維持・活性化 2 風格とにぎわいのある都市拠点や地域の特性を生かした個性的で魅力ある地区拠点の 形成を支える公共交通ネットワークの構築 3 利用者のニーズに合った効果的な公共交通ネットワークの構築 4 市民や来街者、だれもが分かりやすく利用しやすい公共交通の環境整備
目標を達成するため に行う取組の全体 像	The diagram illustrates the overall strategy for achieving public transport goals, structured into four categories: Category 1 (Blue): - 基本方針: (1) すべての人が住み慣れた場所で安心して生活できる公共交通の維持・活性化 - 目標: だれもが安心して生活できる生活交通の確保 - 取組の全体像: - 生活交通の確保・維持（鉄道・バス路線）、地域公共交通ネットワークのあり方検討 - 乗合タクシー（ふれあい交通）の利用促進及び見直しの検討 - 地域内の移動手段の調査・検討 - 路線バス代替交通の運行及び見直しの検討 - 新たなモビリティサービスの調査・検討（その他） - 公共交通以外の輸送資源の可能性検討 - 長寿応援バス事業の実施・継続・見直し Category 2 (Green): - 基本方針: (2) 風格とにぎわいのある都市拠点や地域の特性を活かした個性的で魅力ある地区拠点の形成を支える公共交通ネットワークの構築 - 目標: 都市拠点と地区拠点のにぎわい創出 - 取組の全体像: - 中心市街地循環バス「大分きかんバス」の運行 - 中心市街地公有地利活用の調査・検討 - 新たなモビリティサービスの実施及び検討（グリーンズローモビリティ） - 海上アクセスに関連する取組（MaaS 等） - パークアンドライドやサイクルアンドバスライド等の取組の促進 - 新駅設置の可能性・役割の検討 Category 3 (Yellow): - 基本方針: (3) 利用者のニーズに合った効果的な公共交通ネットワークの構築 - 目標: 公共交通利用者の維持・確保 - 取組の全体像: - 移動需要に応じた運行の見直し（地域旅客サービス継続事業の検討） - 公共交通の連携可能性調査（地域公共交通利便増進事業の検討） - 県都大分市交通円滑化検討（BRT の検討） - 公共交通の利用促進に向けた取組（モビリティ・マネジメント） - 広域圏の公共交通との連携強化 - 新たなモビリティサービスの実施及び検討（自動運転） Category 4 (Pink): - 基本方針: (4) 市民や来街者、だれもが分かりやすく利用しやすい公共交通の環境整備 - 目標: だれもが利用しやすい公共交通 - 取組の全体像: - バスロケ及びデジタルサイネージの運用 - 低床バス、UD タクシーの導入促進等 - 公共交通の情報発信の取組強化 - 市民・来訪者の受入環境整備（観光戦略プランとの整合） - バス停上屋、接続バス停の待合環境整備

(6) 大分市バリアフリーマスタープラン

策定年月	2020年(令和2年)4月
目標年次	2020(令和2)年度～2024(令和6)年度
基本理念	だれもが自由にどこへでも豊かさあふれる大分市
基本方針	<u>1 バリアフリー・ユニバーサルデザインを基本としたまちづくりの大分市全域への拡大</u> 「どこでも、だれでも、自由に、使いやすく」というユニバーサルデザインの考え方を踏まえ、年齢、障がいやケガの有無、性別等に関わらず、誰もが社会参加ができる安全で快適なまちづくりを推進します。バリアフリーマスタープランの策定により、移動等円滑化促進地区の選定及び重点整備地区を設定し、バリアフリー・ユニバーサルデザインを基本としたまちづくりにおける大分市全域への拡大を推進します。
	<u>2 誰もが円滑に移動できるバリアフリー環境の形成強化</u> 本市の都市計画、公共交通ネットワークの特性を踏まえ、高齢者や障がい者をはじめ誰もが、歩行または公共交通を利用してどこへでも円滑に移動ができるバリアフリー化の環境整備を推進します。不特定多数の人々が利用する施設において、バリアフリーの取組を進めます。
	<u>3 市民・事業者・行政の協働による住民参加の取組</u> 事業者や国・県・市の連携を図り、不特定多数の人々が利用する施設を含む一体的かつ重点的なバリアフリー化を推進します。また、計画段階での高齢者、障がい者等との意見を交わすなど、住民参加によるバリアフリー化に取組みます。
	<u>4 継続的なバリアフリー化の進行管理と検証</u> バリアフリー化は単発的な整備で完了するものではなく、また、費用面や整備内容によって短期的に整備を完了することが難しい場合もあることから、面的かつ一体的な整備を継続的に取組むことが必要です。 継続的な取組を行うにあたっては、取組の進行管理を行いながら、PDCAサイクルによる検証を行い、結果に応じて見直しや新たな取組を行います。
	<u>5 心のバリアフリーの推進</u> 安全・安心に社会生活ができるようにするために、物理的な整備だけでなく、市民一人ひとりがバリアフリーについて理解を深め、お互いに協力し、助け合うことにより、心のバリアを取り除くことが必要です。 市民一人ひとりが高齢者、障がい者等への理解と意識の醸成を図るために、これまでの取組を継続して進めていくことが重要です。
	<u>6 計画立案から周知へ、バリアフリーの普及・啓発活動の推進</u> 施設のバリアフリー化によるハード整備の充実とともに、高齢者、障がい者等に対して、市民一人ひとりがやさしさや思いやりを持って接するために、バリアフリー化に関する本市の取組状況を共有し、各種の啓発・広報活動に取組みます。

(7) 大分市自転車活用推進計画

策定年月	2020 年(令和 2 年)4 月
計画期間	2020(令和 2)年度～2024(令和 6)年度
基本方針	バイシクルフレンドリータウン ～自転車が似合うまち～の創造
施策の体系	目標1 自転車で 便利で快適、きれいなまち おおいた 都市環境 1. 安全で快適な自転車通行空間づくり (1) 「大分市自転車走行空間ネットワーク整備計画」の推進 (2) 自転車通行空間を確保するための取組 (3) 自転車案内サイン整備の推進 2. 便利で適切に利用される駐輪環境づくり (1) 「大分市自転車等駐車場整備計画」の推進 (2) 附置義務による民間駐輪場の確保 (3) 放置自転車対策の推進 (4) 自転車盗難対策の推進 3. 交通施策と連動した便利で多様な仕組みづくり (1) シェアサイクル事業の推進 (2) サイクルアンドライドの促進 (3) 将来的な MaaS 導入を見据えた自転車利用環境の構築 (4) IoT 等の活用 目標2 自転車で 心と体が元気になるまち おおいた 健康 4. 情報発信等による自転車利用の促進 (1) 自転車の魅力の発信 (2) 自転車通勤の促進 5. サイクルスポーツの普及促進 (1) サイクルスポーツに親しむ機会の創出 (2) 多様な自転車を楽しめる環境づくり

目標3 自転車で たくさん魅力が見えるまち・魅力をつなげるまち おおいた

観光

6. 自転車を活かした観光・地域振興の推進 (1) 市民参加・体験型のサイクリングイベント等の実施
(2) 観光地における自転車利用環境の充実
(3) 自転車マップの充実

7. サイクルツーリズムの推進 (1) 市域を超えたサイクリングイベントの開催
(2) サイクリングの拠点づくり
(3) 広域サイクリングルートの構築

目標4 自転車に みんなが正しく乗れる安全・安心なまち おおいた

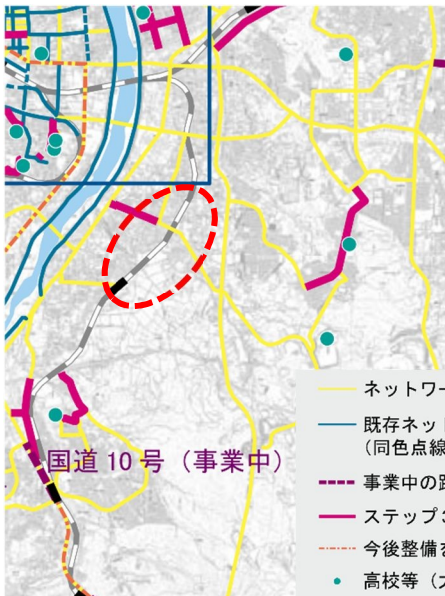
思いやり
＜安全・安心＞

8. 安全な自転車等の普及促進 (1) 安全基準に適合した自転車購入の促進
(2) 自転車の点検整備の促進
(3) 自転車損害賠償責任保険の加入促進

9. 自転車ルール・マナーの啓発 (1) 自転車安全利用五則の周知
(2) 世代に応じた自転車ルール・マナーの啓発
(3) 自転車ヘルメット着用の促進
(4) 通学路等の安全の確保

10. 災害時の自転車活用方策の検討 (1) 災害時に備えた市職員の自転車利用の促進
(2) 災害発生時における放置自転車等の活用
(3) 災害発生時におけるシェアサイクルの活用

(8) 大分市自転車走行空間ネットワーク整備計画

策定年月	2021 年(令和 3 年)3 月
計画期間	2021(令和 3)年度～2025(令和 7)年度
基本方針	ハード施策の基本方針「安全で快適な自転車通行空間づくり」 ソフト施策の基本方針「安全な自転車等の普及促進 自転車ルール・マナーの啓発」
施策の体系	■ハード施策とソフト施策の基本的な考え方 ハード施策の基本的な考え方 ＜ネットワークの早期実現＞ ○新規整備を行う道路については、自転車通行空間整備の検討を行う。 既存道路への自転車ネットワーク整備は課題が多く、時間がかかるのはやむを得ないが、新規整備を行う道路において自転車通行空間の確保を積極的に推進することで、自転車ネットワークの早期実現を目指す。 ＜整備形態の選定＞ ○自転車は車道の左側を通行するという原則に沿った自転車通行空間の整備を行う。 車両である自転車は車道の左側を走るという原則に沿った、自転車道、自転車通行帯、車道混在の3つの整備形態を基本として自転車通行空間の整備を推進する。やむを得ず自転車歩行者道内での歩行者と自転車の分離を行う場合は、自転車ネットワークの暫定的な整備形態と位置付ける。 ソフト施策の基本的な考え方 ＜ルール・マナーの実践＞ ○自転車は車道の左側を通行するという原則に沿った道路利用を促す。 自転車通行空間を整備するだけでは、すべての人が正しく利用するとは限らず、逆走などが発生して危険な場合があることから、様々なソフト施策の推進により、車両である自転車は車道の左側を走るという原則や歩道走行時のルール等を市民に広く認知させるとともに、実践につなげることを目指す。 ＜お互いに配慮する市民意識（思いやり）の醸成＞ ○すべての道路利用者がお互いに配慮する意識づくりを目指す。 自転車通行空間が未整備の道路においても、歩行者、自転車、自動車のすべての道路空間利用者が自転車のルール・マナーについて理解し、お互いに配慮する市民意識（思いやり）を持つことを目指す。
ネットワーク計画	■ネットワーク計画図  ネットワーク計画路線 既存ネットワーク (同色点線は自転車歩行者道内の通行空間分離による整備) --- 事業中の路線 — ステップ3計画路線（今後5年間） - - - 今後整備を検討する路線 ● 高校等（大学、短大、特別支援学校の高等部等も表示） 国道10号（事業中）

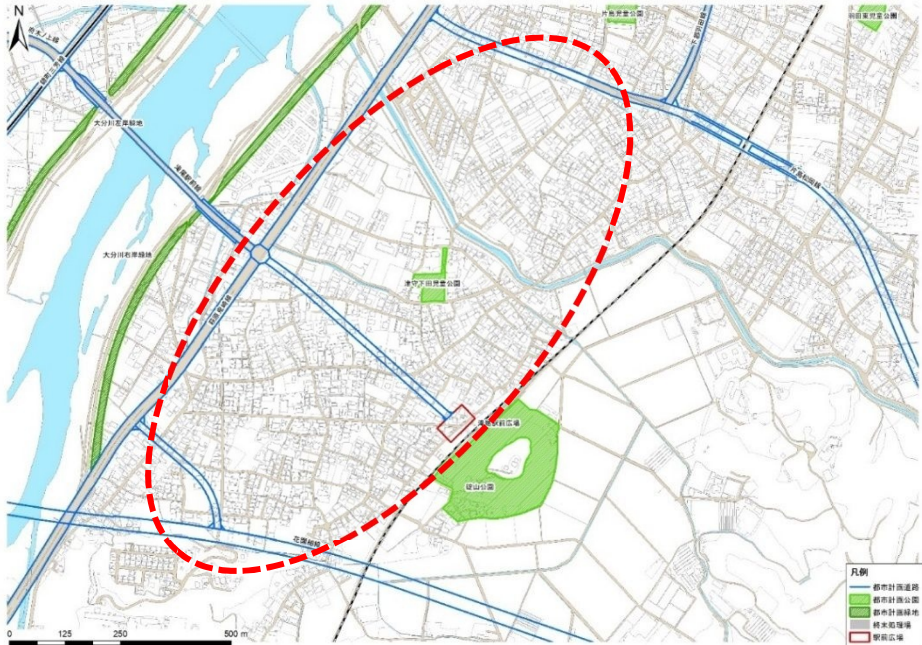
(9) 大分市緑の基本計画

策定年月	2019年(平成31年)3月
目標年次	2038(令和20)年度
基本理念	1 大分らしさを活かした緑づくり 2 人と自然が共生する地域づくり 3 環境にやさしいまちづくり 4 ゆとりとうるおいのある生活空間づくり 5 安全・安心のまちづくり 6 市民参加の緑づくり
緑の将来像	■緑の将来像図 凡例 - 緑の軸となる山間部の豊かな緑 - 身近に接することができる丘陵地の緑 - ふるさと農地景観 - さまざまな緑の空間を持つ河川軸 - 核となる公園・緑地 - まちに広がる緑のネットワーク - 花と緑で彩られた美しい市街地 - すぐれた景観を有する沿岸部の緑
地区別の緑の配置方針	■大分・明野地区 凡例 - 自然公園 - 植物資源ゾーン - 森上の幹線景観地帯 - 森林景観ゾーン - 河川 - 大分ゾーン - 緑化推進ゾーン（住宅団地） - 都市景観ゾーン（商業市街地） - 緑化重点地区 - 県立公園【豊後国】（新山荘神社、緑地等） - 県立公園【本荘町】（新山荘神社、緑地等） - 地区の緑となる公園 - エコジョーナルネットワークの核となる公園・緑地 - 商業団地の緑地 - 河川沿いの緑地及び緑地保全 - 歴史的景観 ■高尾山・杉原八幡宮周辺。大分に流通、上野丘子どものもり公園、上野ヶ丘公園周辺の丘陵地、松葉山公園周辺などで多様な生物が生息・生育できる確保を保全し、エコジョーナルネットワークの形成を図ります。 ■大分駅周辺を緑化重点地区と位置づけ緑化を推進します。 ■大分の役所と旧銀行の維持充実を行います。 ■電停跡等により緑地帯の創出を図り、市街地の緑や河川と一緒に緑のネットワークを整えます。 ■大規模住宅団地を緑化推進ゾーンと位置づけ、緑化を促進します。 ■大分駅近辺から北公園（大分県民会館、地方自治体等）、多摩川・文化・自然を活かした市街地の足場地点とし、併せて大分川川筋の緑化整備を図ります。 ■上野丘子どものもり公園、上野ヶ丘公園（文化とのふれあいや遊びの拠点としての役割）を地域の核とする公園として位置づけ、使途管理や緑地拡大に努めます。

(10) 大分南部地域まちづくりビジョン

策定年月	2018 年(平成 30 年)7 月		
鶴崎地域の将来像	自然豊かな温故知新を体感できるまち		
市長への提言	提言1 住み続けたい、帰ってきたい地域づくり 提言2 地域の歴史的・文化的遺産などを活かした地域交流の充実 提言3 災害に備えた取組の推進		
提言に基づく提案事業 (本地区に関わる提言を 抜粋)	■将来像の実現に向けた取組(事業案)一覧		
	提言	事業名	概要
	1	子育てしやすい住環境の整備	地域内の道路が狭く、通学路を通り抜ける車も多いため危険です。また、地域に子どもが少なくなっており、地域活性化と住環境の改善が必要であることから、道路、駅、公園などの整備を行う。
		JR の線路を利用して富山方式の路面電車を走らせる	大分駅から大分大学駅の間に、3～400m間隔で新駅を設置し、路面電車を走らせることで観光客を集めることができ、高齢者にも優しい公共交通となります。
		滝尾駅前の広い空地を活用	滝尾駅北西の空地を有効活用できるようにしてほしい。市からもJR に働きかけをしてほしい。
		利便性に富んだ街づくり	曲などの地区内の狭い抜け道を通る車が多く危険なため、バイパス道路を整備する。
	2	豊富な歴史を活かした旧跡めぐりサポーターの育成	南部地域の豊富な歴史資源を活用するため、百穴や曲石仏などの地域の歴史を伝える旧跡めぐり子どもサポーターを育成する。郷土愛の醸成につながり、歴史探索などで多世代が交流でき、子育てサークルなども楽しめる機会の創出につながる。
		子育てサロン・地域ふれあいサロンなど未来へつなぐコミュニティの充実・拡充	開催回数の増加や対象者、対象地域の拡大など、子育て世代もそれ以外の人もいきいきと交流しやすい環境の整備を行う。
	3	児童と高齢者が安全に避難できる避難設備(インフラ)の整備	避難拠点となる避難所などへの周辺道路の幅員確保などの整備を行う。緊急車両が入れない道路の拡幅、排水路整備など安全安心に資する整備を行う。
		安全・安心な地域づくり	昨年の台風18号により地域内では床下浸水が発生したこともあり、防災に役立つ情報を地域の人たちで共有するとともに、防災人材の育成などにより、防災意識の向上に役立てる。

(11) 滝尾駅周辺整備基本構想

基本構想の目的 及び対象区域	「滝尾駅周辺整備基本構想」は、社会状況の変化を踏まえ、本地区の拠点整備の方向性や方針等を市民、行政、まちづくりの専門家等で共有し、市民が主役となる都市づくりを官民協働で整備の推進を図っていくことを目的として策定するものです。 
課題	【JR 滝尾駅周辺に関する課題】 課題①：交通結節機能の改善 課題②：駅前広場の整備 課題③：駐車場・駐輪場の確保 【周辺道路に関する課題】 課題①：道路環境の改善 課題②：地区内交通ネットワークの改善 【土地利用に関する課題】 課題①：生活利便施設の立地促進 課題②：土地利用手法の検討 【その他の課題】 課題①：災害対策の促進 課題②：歴史文化資源の活用
滝尾駅周辺地区の 将来像	地域の拠点と周辺環境の整備による住環境の向上
都市づくり方針	1. 滝尾駅の交通結節機能の強化 2. 地区内・地区外への円滑な移動を行うための安全で快適な道路空間の形成 3. 整備に伴う計画的な土地利用の推進 4. 防災・減災への対応と地域資源の活用

方針実現に向けた 取組	【滝尾駅周辺全域(共通)】																																											
	・住環境の向上に向けた基盤整備に伴う取組が必要です。																																											
	・防災・減災に向けた継続的な取組が必要です。																																											
	【都市計画道路 滝尾駅前線】																																											
	・地区の内外から滝尾駅への円滑なアクセスが可能となるよう、都市計画道路滝尾駅前線の整備を推進します。																																											
	【滝尾駅前広場】																																											
各取組の実施時期 のイメージ	・JR 滝尾駅の交通結節機能を向上するとともに、本地区の都市づくりの拠点となるよう、駅前広場の整備を推進します。																																											
	【南北幹線道路】																																											
	・周辺道路の整備状況を踏まえ、地区の南北軸となる幹線道路(バイパス道路)の整備を検討します。																																											
	【狭あい道路等】																																											
	・狭あい道路や幅員の狭い道路、交差点における、安心安全な道路空間の形成手法を検討します。																																											
	<table><tr><th rowspan="2"></th><th rowspan="2"></th><th rowspan="2">取組内容</th><th colspan="3">取組時期</th></tr><tr><th>短期</th><th>中期</th><th>長期</th></tr><tr><td>滝尾駅周辺全域(共通)</td><td>滝尾駅周辺全域</td><td>住環境の向上に向けた基盤整備に伴う取組 防災・減災に向けた取組</td><td colspan="3"> </td></tr><tr><td>都市計画道路 滝尾駅前線</td><td>滝尾駅前線</td><td>地区の東西軸となる滝尾駅前線との整備</td><td colspan="3"> </td></tr><tr><td>滝尾駅前広場</td><td>滝尾駅前広場</td><td>交通結節点となる駅前広場の整備</td><td colspan="3"> </td></tr><tr><td>南北幹線道路</td><td>バイパス道路</td><td>地区の南北軸となる幹線道路(バイパス道路)の検討</td><td colspan="3"> </td></tr><tr><td>狭あい道路等</td><td>滝尾駅周辺全域</td><td>幅員の狭い道路や交差点における安心安全な道路空間の形成検討</td><td colspan="3"> </td></tr></table>								取組内容	取組時期			短期	中期	長期	滝尾駅周辺全域(共通)	滝尾駅周辺全域	住環境の向上に向けた基盤整備に伴う取組 防災・減災に向けた取組				都市計画道路 滝尾駅前線	滝尾駅前線	地区の東西軸となる滝尾駅前線との整備				滝尾駅前広場	滝尾駅前広場	交通結節点となる駅前広場の整備				南北幹線道路	バイパス道路	地区の南北軸となる幹線道路(バイパス道路)の検討				狭あい道路等	滝尾駅周辺全域	幅員の狭い道路や交差点における安心安全な道路空間の形成検討		
		取組内容	取組時期																																									
			短期	中期	長期																																							
滝尾駅周辺全域(共通)	滝尾駅周辺全域	住環境の向上に向けた基盤整備に伴う取組 防災・減災に向けた取組																																										
都市計画道路 滝尾駅前線	滝尾駅前線	地区の東西軸となる滝尾駅前線との整備																																										
滝尾駅前広場	滝尾駅前広場	交通結節点となる駅前広場の整備																																										
南北幹線道路	バイパス道路	地区の南北軸となる幹線道路(バイパス道路)の検討																																										
狭あい道路等	滝尾駅周辺全域	幅員の狭い道路や交差点における安心安全な道路空間の形成検討																																										

(12) 滝尾中部地区住環境整備事業

地区概要	滝尾中部地区は、大分市中心部から南東約 3 キロメートルの位置にあり、環状道路の整備により中心市街地や大分自動車道へのアクセス機能が高い住宅地と幹線道路沿道の工業地で構成されています。また、地域内には農地も多く点在しており自然豊かな地域でもあります。 しかし、この地区は公共施設が未整備のまま住宅化が進んだ事により、防災上危険な密集住宅地を形成し、狭隘道路が多数存在しています。
対象地区	大分市片島・羽田・米良の各一部
整備状況	本地区は、幹線道路と呼べる道路がなく円滑な交通体系が形成されていないことや、狭隘な生活道路が多いことから、災害時における緊急車両の進入困難等の防災上の不備および歩行者の安全確保が懸念されていました。このため住環境整備事業を行うことにより、緊急車両の進入経路や歩行者空間を確保し、安全・安心なまちづくりを推進しています。現在(都)片島松岡線(辻堂交差点～米良バイパス間)の整備に着手しており、主に用地買収を行っています。
整備概要	■主な整備内容 都市計画道路：片島松岡線 全長＝1,088メートル、幅員＝18～25メートル ■事業期間 平成29年度～令和15年度
整備位置図	都市計画道路 片島松岡線 位置図 アンダーパスとは、鉄道や道路との交差点で、道路を掘り下げてくぐり抜ける施設です。当該箇所は、JR豊肥本線の西側に道路を建設します。 事業認可範囲 延長L=1,088m、幅員W=18～25m 事業期間 平成29年度 から 令和15年度（予定）

2. ワークショップ

2-1. ワークショップの概要

滝尾駅前広場の整備方針を検討するにあたり、地域住民の意見を反映するためワークショップ（全2回）を開催しました。

第1回 滝尾駅前広場の「使い方」を考えよう

第1回ワークショップでは、滝尾駅前広場について、こんな「使い方」ができればいいなと思うことを地域の方々から聞きました。

日 時：2023年2月11日（土） 18:30～20:30

会 場：大分南部公民館 集会室

参加人数：36名（※一般参加者）



第1回ワークショップのようす

第2回 滝尾駅前広場の「レイアウト」を考えよう

第2回ワークショップでは、第1回でいただいた意見を参考に作成した滝尾駅前広場のイメージ図（案）をもとにワークショップとしてのアイデアをまとめました。

日 時：2023年7月30日（日） 14:00～16:30

会 場：大分南部公民館 集会室

参加人数：12名（※一般参加者）



第2回ワークショップのようす

2-2. ワークショップニュース

第1回 滝尾駅前広場に関する ワークショップニュース

【テーマ】 滝尾駅前広場の 「使い方」 を考えよう

実施日時：令和5年2月11日(土)
18:30~20:30

会 場：大分南部公民館
集会室

参加人数：36名

■ワークショップの目的と概要

滝尾駅前広場がどのような駅前広場になれば良いか、参加者の皆さんのアイデアをまとめていくことが目的です。

ワークショップは全2回開催を予定しており、令和5年2月11日(土)に第1回ワークショップを開催いたしました。

第1回ワークショップでは、滝尾駅前広場について、こんな「使い方」ができればいいなと思うことを皆さんからお聞きました。

第2回ワークショップ(令和5年7月頃開催予定)では、今回いただいたご意見を参考に作成した駅前広場イメージ図(案)を基にワークショップとしてのアイデアをまとめていきます。

■ワークショップの内容

「滝尾駅前広場の「使い方」を考えよう」をメインテーマに、参加者は、A・B・C・D・E・Fの6つのグループにそれぞれ分かれ、滝尾駅における「課題」と、駅前広場に必要な「機能や施設」を整理しました。

グループごとの検討では、滝尾駅の「今の使い方」や「課題」、より使いやすい滝尾駅にするために駅前広場に必要な「機能や施設」について、それぞれ付箋紙に記入し、意見を発表していただきながら、地図等に貼り付け、各グループで意見をまとめました。

最後は、各グループの成果を全体に発表し、参加者全員で意見を共有しました。



全体の様子



成果発表の様子

■タイムスケジュール

時刻	プログラム
ステップ1：はじめに（全体）	
18:30	開会
18:33	ワークショップについて
18:40	駅前広場についての説明
ステップ2：ワークショップ（グループごと）	
18:45	グループワーク
	滝尾駅前広場の「使い方」を考えよう ○今の滝尾駅をどのように使っているか教えてください。 ○本日の作業内容を確認しましょう。 ○今の滝尾駅の「課題」を考えましょう。 ○滝尾駅前広場に必要な「機能や施設」を考えましょう。 ○「機能や施設」の優先順位を整理しましょう。 ○グループの意見をとりまとめましょう。
20:05	成果発表
ステップ3：おわりに（全体）	
20:20	今後に向けて
20:27	閉会

【お問い合わせ】

大分市役所 都市計画部 都市計画課
(都市計画課) 担当：立花、関
(まちなみ企画課) 担当：和間、長尾

住所：〒870-8504
電話：097-537-5967
電話：097-574-6628

大分市荷揚町2番31号
E-mail: tokei4@city.oita.oita.jp
E-mail: matikikaku@city.oita.oita.jp

ワークショップでは、いろんなご意見をいただきました！！

駅前広場は主に6つの機能を有しており、それぞれの機能についての意見は以下のとおりです。

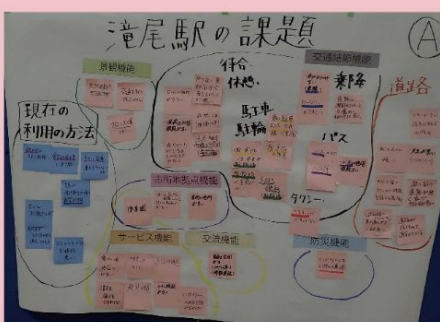
① 交通結節機能	【課題】 ・車の乗降スペースがなく、送迎にくい。 ・駐車場がない ・駐輪場の管理が行き届いていない。(放置自転車) ・駐輪場に屋根がなく、雨でぬれる。 ・バス停がなく、バスとの乗り換えがしづらい。 ・タクシーの駐車場所がなく、利用しづらい。 ・道路と駅前の境界が分かりづらい。 ・狭い道路が多く、車等で駅前にアクセスしづらい ・転回ができないなど交通の流れが悪い。 ・舗装がガタガタで車いす等での通行しづらい。 【必要な機能や施設】 ・バス、タクシー、自家用車の乗降所 ・駐車場 ・屋根付き駐輪場 ・バス停留所 ・タクシープール ・屋根付きの通路 ・歩行者用通路 ・車でアクセスや転回がしやすい形状の駅前広場（ロータリー型の交差点） ・周辺道路の拡幅及び車イス等が利用しやすい通路
② 市街地拠点機能	【課題】 ・駅の近くに買い物ができる場所がない。 ・近くで遊んでいるときにちょっと食べたい。 ・野菜等を直売できる場所がない。 ・駅の近くに保育園等の子育て支援機能がない。 ・駅の近くに会社がない。 【必要な機能や施設】 ・コンビニやスーパー等の買い物ができる施設 ・公共手続き（住民票の取得）ができる場所 ・農家さんと協同で商業スペース ・自動販売機 ・保育施設、商業施設
③ 交流機能	【課題】 ・イベントや情報発信等の自由に使える空間がない。 ・雨天時や夏場等に待合や休憩ができる場所がない。 ・駅前でゆっくりするスペースがない。 ・子どもの遊具や子どもルーム、育児支援施設がない。 ・高齢者などが休憩したり、座るところがない。 【必要な機能や施設】 ・多目的かつ災害時に利用できる広場空間 ・待合所（屋根付き、話し合いのできるスペース） ・芝生広場（ピクニック等で活用）、ベンチ ・高齢者がくつろげる空間、子どもが遊べる空間 ・育児支援施設
④ 景観機能	【課題】 ・ブロンズ像や樹木等、地区をイメージするシンボルがない。 ・にぎわいがなく、夜間に暗いなど景観的にさみしい。 ・駅周辺に街灯がなく、夜に暗い。 ・小さくても良いので電車が見れる所が欲しい。 【必要な機能や施設】 ・地域のシンボル（地域を一目で象徴するもの） ・明るいイメージが持てる緑や親水空間 ・樹木 ・街灯 ・電車を眺めることができる小規模なスペース
⑤ サービス機能	【課題】 ・時計がない。 ・トイレがない。 ・歴史等の情報発信ができるような案内板がない。 ・電光掲示板がなく、電車の状況がわかりづらい。 ・公衆電話、郵便ポストがない。 【必要な機能や施設】 ・時計（休憩室、外の両方） ・トイレ ・案内板や電光掲示板 ・公衆電話 ・郵便ポスト
⑥ 防災機能	【課題】 ・街灯が少なく、駅周辺が暗い。 ・駅周辺の道路が狭く、緊急車両が入りづらい。 ・災害時の備蓄倉庫等がない。 【必要な機能や施設】 ・駅員さんや交番、防犯カメラ ・街灯や照明（防犯、防災）、屋根（防災時の雨よけ） ・津波や地震に備えた高所や地下避難所 ・食料備蓄施設

グループごとのワーク

Aグループ 参加者 5名



車でのアクセスや乗り降りなど、交通結節機能が強化されると使いやすい駅前になりそう。雨風をしのげる快適な待合空間や多目的に使える広場があるといいな！！



Bグループ 参加者 7名



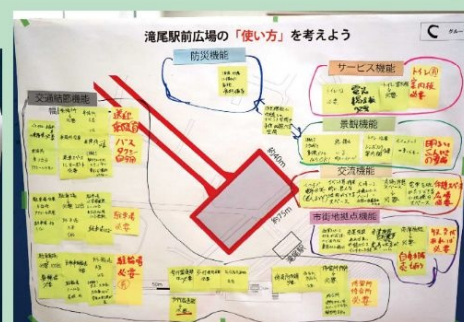
現在は、年に数回程度しか、滝尾駅を利用していないかな。アクセスがしやすく、話し合いなどができるような待合空間があれば、もっと利用が増えるかも！！



Cグループ 参加者 7名



滝尾駅は、通勤・通学に利用する人が多いと思う。駐輪場や送迎用の乗降場など、通勤・通学利用がしやすくなる機能があるといいな！！



ショップの様子と成果

Dグループ 参加者 6名



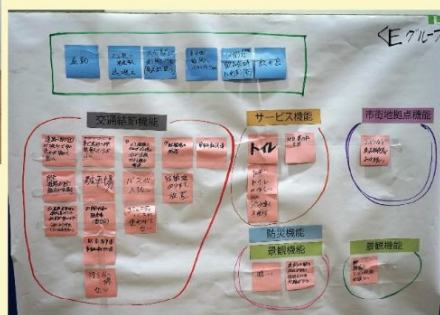
送迎者の待機スペースや駐車場が狭いと思う。子どもが遊べたり、高齢者等が気軽に休憩できるような場所があるといいな！！



Eグループ 参加者 6名



滝尾駅周辺は、街灯が少なく、夜は怖い印象がある。
街灯やトイレを設置したりして快適に利用できる駅前になるといいな！！



Fグループ 参加者 5名



周辺の道路を含め、ベビーカー等で訪れるのは怖い印象がある。歩行者用通路や広場の整備など、駅前の立地を活かした子どもと利用しやすい場所になるといいな！！



第2回 滝尾駅前広場に関する ワークショップニュース

【テーマ】 滝尾駅前広場の 「レイアウト」 を考えよう

実施日時：令和5年7月30日（日）
14:00～16:30

会場：大分南部公民館
集会室

参加人数：12名

■ワークショップの目的と概要

令和5年7月30日（日）に、「第2回 滝尾駅前広場に関するワークショップ」（全2回開催）を行いました。

第1回のワークショップでは、滝尾駅前広場について、こんな「使い方」ができればいいなと思うことを地域の方々からお聞きしました。

第2回目で最終回となる今回は、前回いただいたご意見を参考に作成した滝尾駅前広場の「イメージ図（案）」を基にワークショップとしてのアイデアをまとめていきました。

■タイムスケジュール

時間	プログラム
はじめに（全体）	
14:00	開会
14:03	ワークショップについて
14:10	駅前広場についての説明
ワークショップ（グループごと）	
14:20	グループワーク1 ステップ1 ：（10分） 滝尾駅前広場の「イメージ図（案）」について意見を出そう ●自己紹介等 ●作業内容の確認 ステップ2 ：（20分） ●イメージ図へ意見
14:50	意見発表
15:10	グループワーク2 ステップ3 ：（20分） 滝尾駅前広場の「レイアウト」を考えよう ●機能や施設等 ●テーマ決め ステップ4 ：（20分） ●道路線形を描く ●機能や施設の配置
16:00	成果発表
おわりに（全体）	
16:20	今後について
16:25	閉会

■ワークショップの内容

「滝尾駅前広場の「レイアウト」を考えよう」をメインテーマに、参加者はA・B・Cの3つの班にそれぞれ分かれて検討しました。

ステップ1では、それぞれが滝尾駅前広場を将来どんな場所にしたいかを考えました。

ステップ2では、代表的な3つの案について長所や短所を比較検討しました。

ステップ3では、滝尾駅前広場にあると良い施設、必要な施設、実際にしたいことなどについて、第1回の内容も念頭に置きつつ、改めて考えていただいて整理しました。

ステップ4では、滝尾駅前広場のレイアウトを考えました。



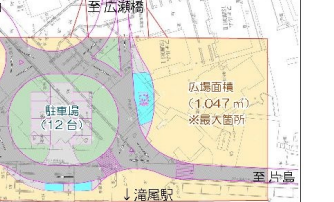
【お問い合わせ】

大分市役所 都市計画部 まちなみ企画課
担当：信原、長尾 電話：097-585-6004

所在地：〒870-8504 大分市荷揚町2番31号
メール：matikikaku@city.oita.oita.jp

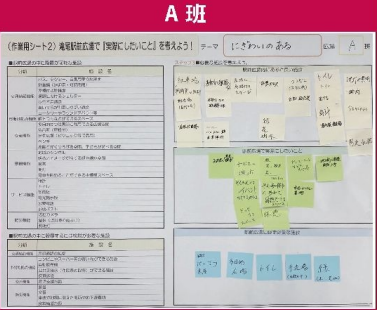
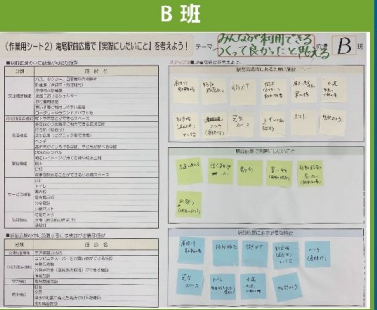
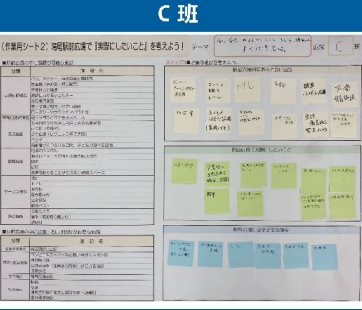
■グループワーク1 滝尾駅前広場の「イメージ図(案)」についてご意見をいただきました!

ステップ2 イメージ図へ意見を出そう。

		【A案】ロータリー案、結節機能重視	【B案】ラウンドアバウト案、交通機能重視	【C案】ロータリー案、広場機能重視
A班	長所	 ・駅利用者のアクセス性が各案中、最も優れる。(各種乗降場、駐車場が駅に近い) ・各案中、駐車場が最も多い。	 ・各案中、車の交通が最も円滑。 ・市内初形状採用というシンボル性がある。	 ・各案中、最大の広場を確保できる。 ・駐車場がA案に次いで多い。
	短所	・通過車両が各種乗降場付近を通過するため、混雑の恐れあり。 ・広場へのアクセス性がB案より劣る。	・各案中、車の交通が最も円滑。 ・最大広場部分が不整形。 ・駅利用者、各種乗降場を確保できず、駅利用者のアクセス性が各案中、最も劣る。 ・駐車台数が各案の中で最少(5台)。	・通過車両が各種乗降場付近を通過する上、混雑の恐れあり。 ・バス乗降場から駅へのアクセス性がA案より劣る。 ・広場へのアクセス性がB案より劣る。
	共通	・一般車両(通過車両)が広場内に入らないようにしたい(A,B,C共通) ・無断駐車対策が必要 ・曲から滝尾駅等を通るバイパスとのアクセスはどうなるのか ・若い人の意見が必要 ・地区に遊ぶ場所がほしい		
	意見	・B、C案に比べると中心部に広場があり広場を利用しやすいので、A案が良い ・駐車場と広場とのアクセスが良い ・車のさばきは良い	・駅に面した部分の広場がある程度広く、行事等が利用しやすい ・車のさばきは最適	・広場が広く、活用しやすい
B班	長所	・バス停と駅が近い	・真ん中の島(緑のスペース)は、人が通れずもったいない ・広場が分断され形が不整形で無駄なスペースが多い ・車の交通量が多いと有効だと思うが、この場所では必要ないかも ・目的が車を流すことにかたより過ぎている ・バス停が駅から遠い	・広場が道路で囲われていない ・横断歩道が無いので安全 ・広場が広い ・車の乗降場と駅が近い
	短所	・駐車場台数が必要以上に多い(現状は夕方4～5台程度停まるだけ) ・駐車台数が多いと駅に関係のない使い方をする ・道路を横断しないと広場に行けない ・地元の人にはバス利用が少なくメリットがあまり無いかも	・真ん中の島(緑のスペース)は、人が通れずもったいない ・広場が分断され形が不整形で無駄なスペースが多い ・車の交通量が多いと有効だと思うが、この場所では必要ないかも ・目的が車を流すことにかたより過ぎている ・バス停が駅から遠い	・駐車場台数が必要以上に多い(現状は夕方4～5台程度停まるだけ)
C班	長所	・送迎スペースが駅の近くに作れる ・バス停が駅から近い	・交通が円滑	・バス停が駅から近い ・送迎スペースを駅の近くに作れる ・碓山の流しソーメンのイベントなど、地区のイベントを広場で開催しやすい
	短所	・駐車場はそれほど確保しなくても良い	・バス停が駅から遠い ・送迎スペースが駅から遠い ・交通量は増えるが、通過されるだけで地元にはメリットが無い	・駐車場はそれほど確保しなくても良い ・それほど大きな広場面積を確保しなくても良い

■グループワーク2 滝尾駅前広場の「レイアウト」を考えました！

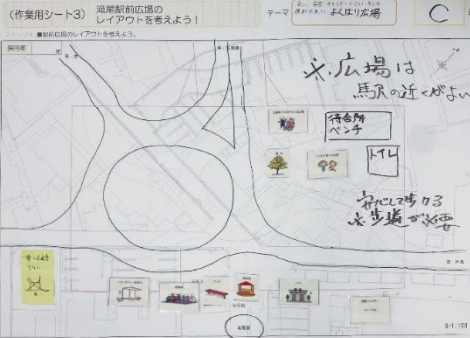
ステップ3 必要な施設を考えよう。

	A 班	B 班	C 班
			
	駅前広場にあると良い施設	駅前広場で実際にしたいこと	駅前広場に必ず必要な施設
A 班	・バス、タクシー、車の乗降場 ・広場に屋根付きステージ ・駐車場（時間貸有料 or 無料） ・コンビニ（自販機） ・屋根付き駐輪場 ・街灯や照明 ・屋根付き通路 ・休憩スペース ・緑、花、樹木 ・案内板電光器 ・自動販売機	テーマ：にぎわいのある広場 ・子ども達に青空授業がしたい ・子どもと広場で遊びたい ・簡単なイベント ・ドッグランで犬を遊ばせたい ・緑、芝、樹木、花を見る、育てる ・休憩したい（散歩の途中など） ・フリーマーケットなどのイベント ・市場、マルシェ、買い物 ・地域の情報周知・入手	・パーゴラ、あずまや ・多目的広場 ・トイレ ・水道（手洗い・水飲み場） ・緑（木・芝など）
B 班	・屋根付き駐輪場 ・移動販売スペース ・樹木（大きくなりすぎないもの）数本程度 ・歴史・滝尾地区の案内板 ・水道（手洗い・水飲み場） ・駐車場（送迎用）4～5台 ・トイレ（多目的トイレ含む） ・屋根付ベンチ・ポスト・街灯 ・芝生スペース・防犯カメラ	テーマ：みんなが利用できるつくって良かったと思える広場 ・友達と会ったり集まったりして話がしたい（そこに行けば誰かいて集会のように話ができる雰囲気が良い） ・お祭り（地区のイベント） ・散歩 ・移動販売など（朝市などを開催して売り買いたい）	・屋根付き駐輪場 ・芝生スペース ・移動販売 ・トイレ（多目的トイレも含めて） ・街灯 ・水道（手洗い、水飲み場） ・駐車場（送迎用）4～5台 ・防犯カメラ ・屋根付ベンチ
C 班	テーマ：よくばり広場 ・休憩できる施設（休憩室、待合室など） ・ICカードチャージ機能付券売機 ・子どもが遊べる広場（夏場でも） ・子ども達が安心して歩ける歩道 ・食料備蓄施設 ・電気インフラ ・トイレ ・芝生広場 ・保育施設 ・待合室	～安心・安全・やすらぎ・憩い～ ・日陰で休憩したり広場でくつろいだりしたい ・住民同士でふれあいたい ・災害時の一時避難所として活用できる施設、空間にしたい ・緊急車両など日常の緊急時に使いたい ・救急車のアクセスを良くして、緊急時などに使いたい ・子ども達を安心して学校に通わせたい ・子どもを遊ばせたい	子ども・便利の良い～ ・車道と分離されている、安心して歩ける歩道 ・十分な広さを持った広場 ・トイレ ・屋根付休憩所（あずまやなど） ・屋根付歩道（シェルター） ・駐輪場

■発表

ステップ4 駅前広場のレイアウトを考えよう。

ステップ1～3を踏まえ、ステップ4でレイアウト等を検討した後、班毎に発表しました。

A 班 テーマ：にぎわいのある広場	発表内容
	発表内容 パーゴラやあずまやなどの休憩スペースに隣接して、緑、トイレ、手洗い場などがあると良い。様々な期間限定イベントができる多目的広場も良い。 人が集まる広場としたいが、通過交通が多いと危ない。通過交通と JR 利用者の車両動線を分けてレイアウトし、安全性を確保する。ただし、広場面積が狭まるのは課題だ。 
B 班 テーマ：みんなが利用できるつくって良かったと思える広場	発表内容
	発表内容 駐輪場、移動販売などが必要、防犯カメラとトイレは絶対に必要。レイアウトはC案をベースに、街灯、乗降場、屋根付き駐輪場、トイレ、防犯カメラを配置した。 特に広場を重視し、移動販売や朝市ができるスペース、ベンチ、テーブル、芝、子どもが遊んだ時の手洗い場や水飲み場があると良い。 
C 班 テーマ：よくばり広場～安心・安全・やすらぎ・憩い・子ども・便利の良～	発表内容
	発表内容 レイアウトはC案をベースに、広場でつろぐ、災害時の一時避難場所、緊急車両など緊急時の活用、ふれあいや交流の場、子ども達が安心して使える広場にしたい。 トイレ、休憩施設、ベンチ、緑陰となる樹木、駐輪場などが必要。 交通量の実態を踏まえ、道路は今後もう少し検討が必要。 

■おわりに（総評、今後の予定など）

〈総評〉

総評として、西日本コンサルタント株式会社の久保氏から、みなさんの期待感が伝わったこと、いただいた3つのテーマに駅前広場を近づけるよう専門的な立場から取り組みたいことなどが話されました。

〈今後の予定〉

今後は、みなさんのご意見等を参考にさせていただきながら、駅前広場や滝尾駅前線の整備に向けた手続きを来年の3月位を目途に進めていきたいことなどを説明しました。

3. 地元会議

3-1. 地元会議の概要

滝尾駅前広場の整備方針を検討するにあたり、地域住民の意見を反映するため地元会議（全3回）を開催しました。

第1回 滝尾駅前広場の基本計画に関する地元会議

第1回地元会議では、第2回ワークショップの結果報告と基本計画図（たたき案）などについて、地域の代表者と意見交換を行いました。

日 時：2023年9月22日（金） 10:00～11:00

会 場：森岡校区公民館

参加人数：11名（※各地区の自治会長、地区内の校長・PTA会長・地区連合自治会 他）



第1回地元会議のようす

第2回 滝尾駅前広場の基本計画に関する地元会議

第2回地元会議では、第1回目の意見に関する回答や駅前広場の施設計画（案）、道路形状などについて、地域の代表者と意見交換を行いました。

日 時：2024年1月25日（木） 10:00～11:30

会 場：森岡校区公民館

参加人数：11名（※各地区の自治会長、地区内の校長・PTA会長・地区連合自治会 他）



第2回地元会議のようす

第3回 滝尾駅前広場の基本計画に関する地元会議

第3回地元会議では、基本計画について、地域の代表者と意見交換を行いました。

日 時：2024年12月26日（木） 10:00～11:00

会 場：森岡校区公民館

参加人数：10名（※各地区の自治会長、地区内の校長・PTA会長・地区連合自治会 他）



第3回地元会議のようす

【滝尾駅前広場の基本計画に関する地元会議メンバー】

○津守地区（3名）

- | | |
|----------|---------|
| ・津守上自治会長 | 片山 仁之 氏 |
| ・津守下自治会長 | 阿部 和広 氏 |
| ・富岡自治会長 | 福田 耕三 氏 |

○曲地区（3名）

- | | |
|----------|---------|
| ・曲上自治会長 | 大山 義雄 氏 |
| ・曲下自治会長 | 甲斐 清己 氏 |
| ・前曲下自治会長 | 首藤 強一 氏 |

○地区関係者（3名）

- | | |
|---------------|---------|
| ・森岡小学校校長 | 窪田 秀樹 氏 |
| ・森岡小学校 PTA 会長 | 松川 大介 氏 |
| ・森岡公民館館長 | 橋本 正勝 氏 |

○滝尾地区連合自治会（2名）

- | | |
|----------------|---------|
| ・会長（米良下自治会長） | 糸永 隆章 氏 |
| ・副会長（南下郡南自治会長） | 佐藤 宏俊 氏 |

※役職等については、2023年（令和5年）9月時点

【事務局】

- | | |
|---------|----------|
| （都市計画部） | ・まちなみ企画課 |
| | ・都市計画課 |
| | ・まちなみ整備課 |
| （土木建築部） | ・土木管理課 |

4. 滝尾駅前広場の将来利用者数

滝尾駅広場の交通空間（交通結節機能）に関する施設として、「乗降場（バス・自動車）」「自家用車短時間駐車場」「待機場（タクシー）」「駐輪場（自転車・バイク）」があげられます。

これらの施設規模の設定にあたっては、まちづくりの動向などを見据えた駅前広場利用者数の「諸将来利用者数（目標値）」を設定し、目標値に応じた計画とします。

(1) 滝尾駅の利用者数

2024 年（令和 6 年）1 月現在、大分市統計年鑑で公表されている年間乗車人員（人/年）をもとに、1 日当り 1 往復として駅の利用者数（人/日）を算出しています。

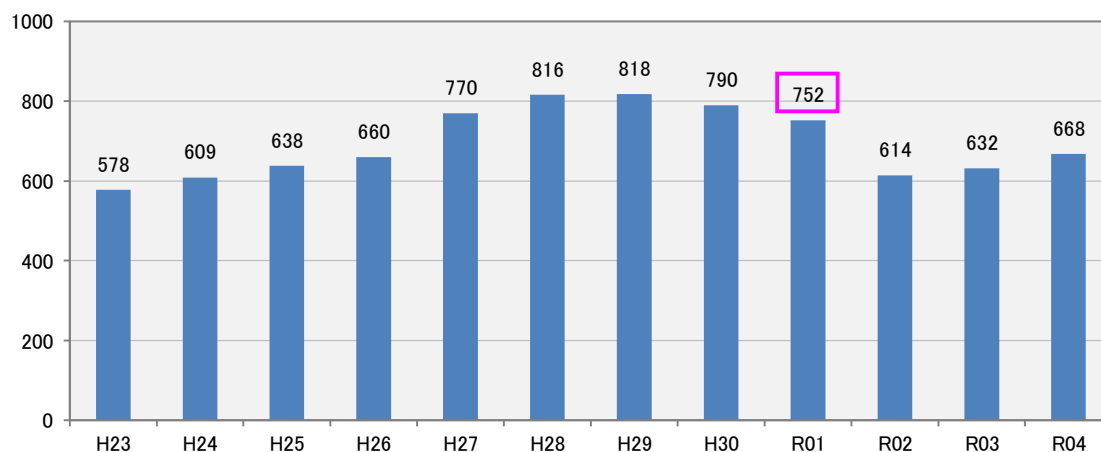
2020 年度（令和 2 年度）以降はコロナ禍の影響で利用者数が減少しているため、コロナ禍以前となる 2019 年度（令和元年度）の 752 人を現在の利用者数として設定します。

■JR滝尾駅の乗車人員の推移（人/年）

年度	年間乗車人員 （人/年）	利用者数（人/日）の算出
2017 年度	149,285	$149,285 \times 2 / 365 = 818$ 人
2018 年度	144,175	$144,175 \times 2 / 365 = 790$ 人
2019 年度	137,240	$137,240 \times 2 / 365 = 752$ 人
2020 年度	112,055	$112,055 \times 2 / 365 = 614$ 人
2021 年度	115,340	$115,340 \times 2 / 365 = 632$ 人
2022 年度	121,910	$121,910 \times 2 / 365 = 668$ 人

資料：大分市統計年鑑

■JR 滝尾駅の利用者数の推移（人）



資料：大分市統計年鑑をもとに算出（乗車人員×2/365 日）

(2) 駅前広場の利用者数の目標値

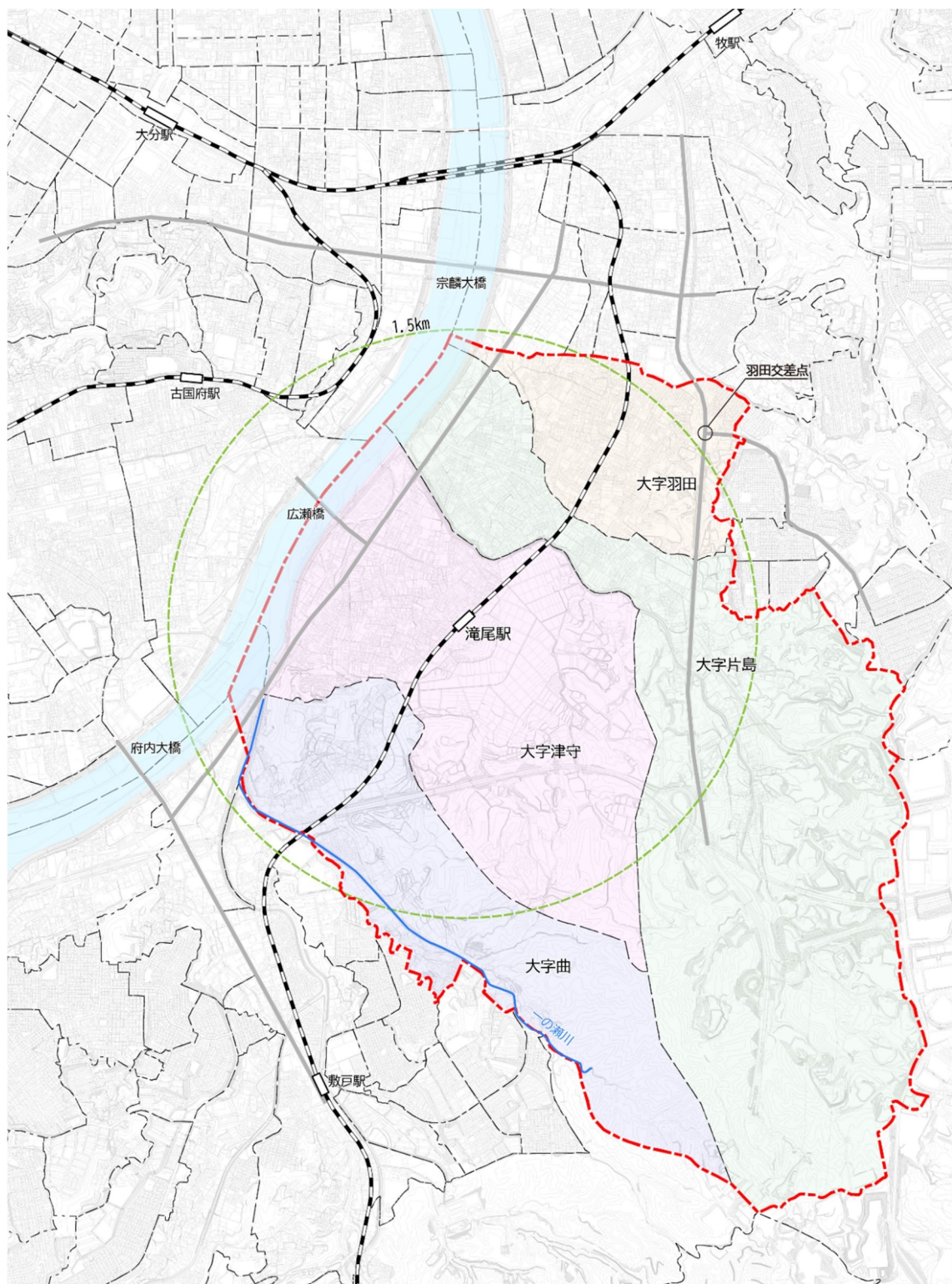
前頁の将来利用者数を踏まえて、駅勢圏の人口推移とまちづくりの動向などから滝尾駅前広場の目標値（利用者数〔人/日〕）を設定します。

① 駅勢圏の設定

JR 滝尾駅の駅勢圏については、以下の周辺状況を踏まえて、JR 滝尾駅を中心に概ね 1.5km 圏内に位置する「大字羽田」「大字片島（米良含む）」「大字津守（富岡含む）」「大字曲」を駅勢圏として設定します。

- ・ 大分川より西側に位置する地域は JR 大分駅や JR 古国府駅の利用が多いと考えられる。
- ・ バス路線となっている羽田交差点（県道 56 号及び市道丸尾団地 1 号線の交差点）より北及び東側は、JR 滝尾駅を利用しないと考えられる。
- ・ 一の瀬川より南側は JR 敷戸駅の利用が多いと考えられる。

■駅勢圏の設定



：滝尾駅勢圏

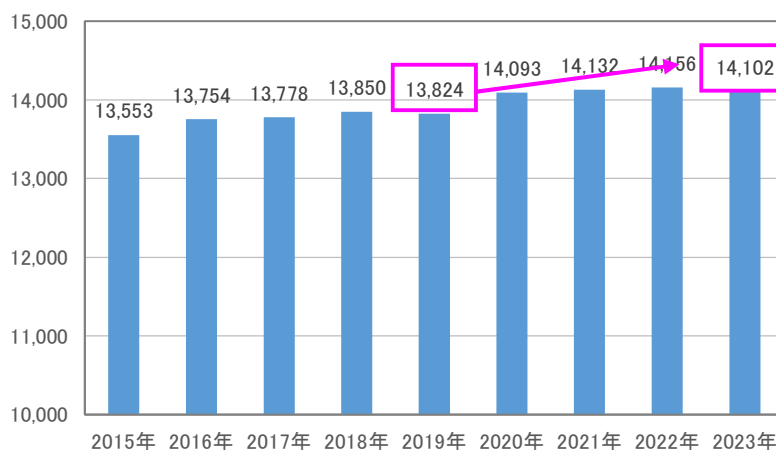
② 利用者数の目標値

a. 駅勢圏の人口推移

2023 年（令和 5 年）9 月現在の駅勢圏人口は 14,102 人となっており、近年はほぼ横ばいで推移しています。

■ 駅勢圏の人口推移

町丁名	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
片島	4,080	4,047	4,072	4,093	4,068	4,074	4,048	4,087	4,003
羽田	3,882	3,974	3,997	4,057	4,049	4,174	4,200	4,145	4,120
米良	557	565	578	555	583	576	574	549	562
津守	2,965	3,054	3,033	3,016	3,013	3,097	3,119	3,115	3,164
富岡	923	922	931	958	941	934	952	963	962
曲	1,146	1,192	1,167	1,171	1,170	1,238	1,239	1,297	1,291
合計	13,553	13,754	13,778	13,850	13,824	14,093	14,132	14,156	14,102

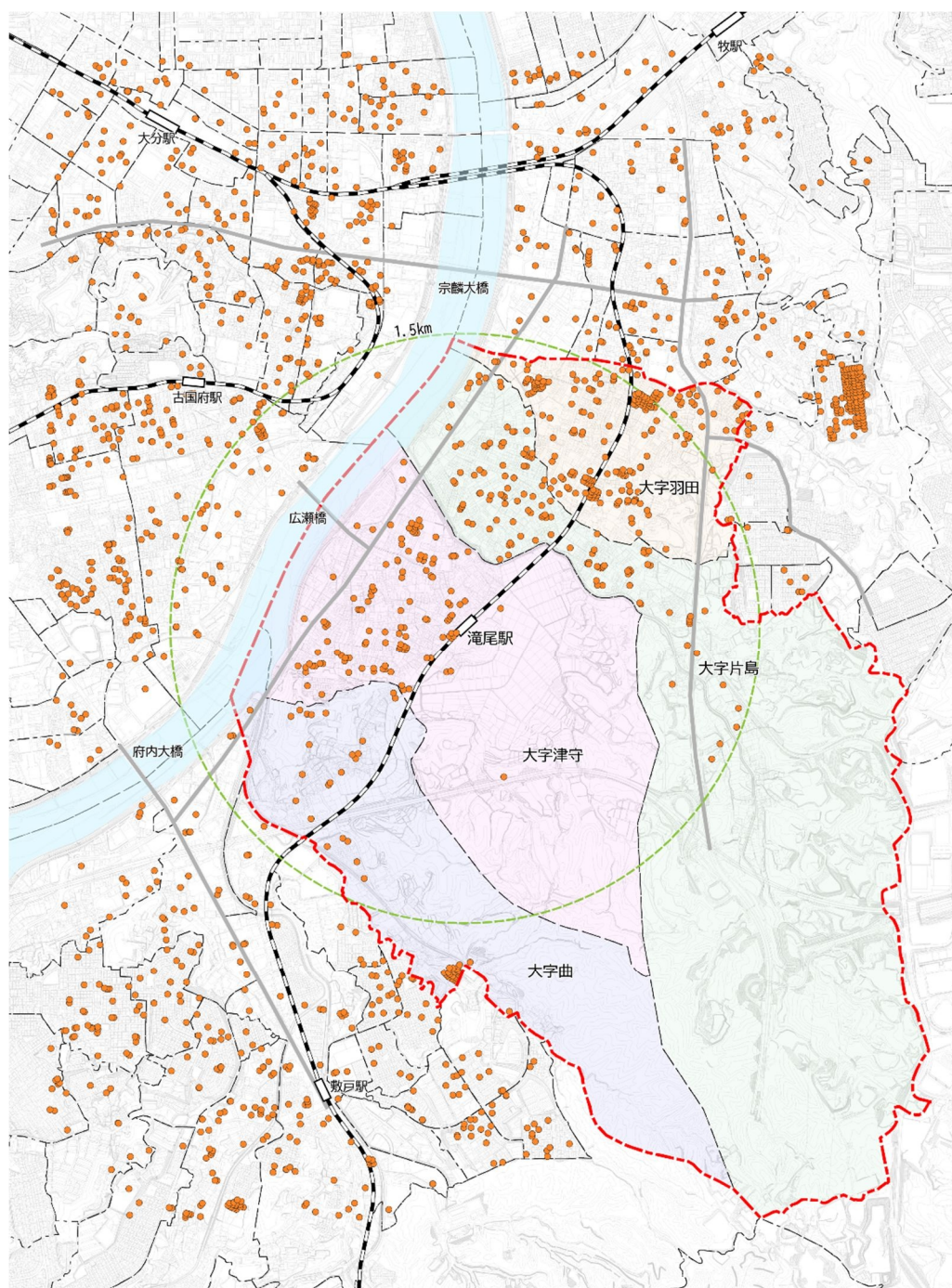


資料：大分市住民基本台帳（各年9月末）

b. 駅勢圏付近における新築動向

駅勢圏付近において、2015 年度（平成 27 年度）～2020 年度（令和 2 年度）にかけて新築の建物の立地が確認できます。駅勢圏は大分市中心部に近いこともあり、今後も新築の建物が立地していくもの考えられます。

■新築動向（2015 年度（平成 27 年度）～2020 年度（令和 2 年度））



: 滝尾駅勢圏

資料：大分市（都市計画基礎調査）

c. 目標値の設定

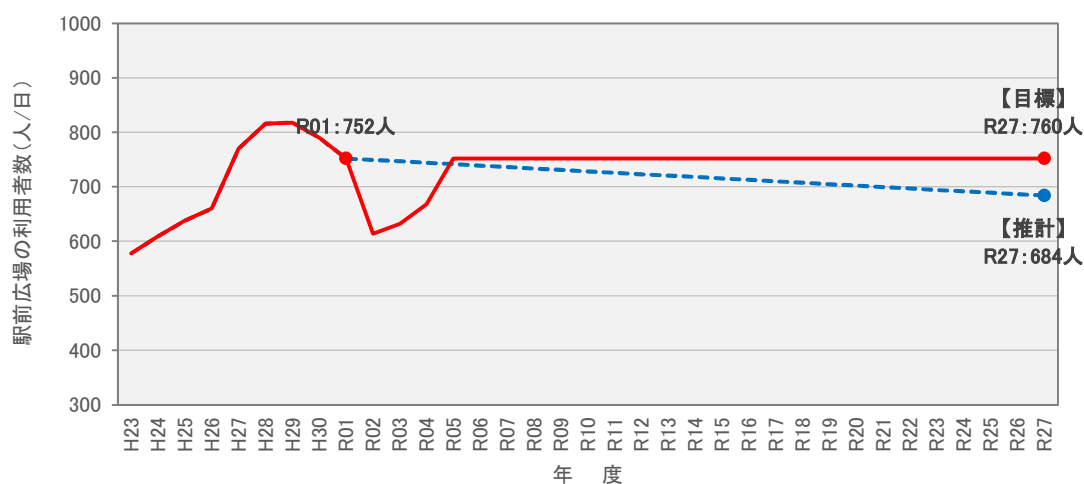
a. ～ b. を踏まえて、整備基本構想における滝尾駅周辺地区の将来像である「地域の拠点と周辺環境の整備による居住環境の向上」を目指し、滝尾駅前広場及び(都)滝尾駅前線の整備に合わせて、周辺のまちづくりを実施することで、人口の減少傾向を抑えて現状を維持することを目標とします。

これより、JR 滝尾駅の利用者数の目標値は「760 人/日」とします。

■目標値

駅利用者数の目標値 : 760 人/日

■駅前広場の利用者数の推移



「推計値」は大分市人口ビジョンにおける大分地区の伸び率などから算出しています。

5. 交通空間の施設規模

滝尾駅前広場の目標値である「760（人/日）」を用いて、「(1)パーソントリップ調査」「(2)交通量調査」「(3)大分市内の鉄道駅の事例」をもとに算出した各種施設規模を整理します。

(1) パーソントリップ調査

鉄道端末交通手段分担率（パーソントリップ調査）およびピーク率（駅前広場計画指針）による各種交通手段の利用人数から、施設規模を算出します。

■鉄道端末代表交通手段（分担率）

駅名	路線バス	自動車（同乗）	自動車（運転）	タクシー	バイク	自転車	徒歩	総計
滝尾駅	0.0%	5.4%	5.4%	0.0%	0.0%	16.2%	73.0%	100.0%

資料：2013年（平成25年）大分都市圏パーソントリップ調査結果
「鉄道駅別ゾーン別鉄道端末別乗降トリップ数」（大分県公表データ）

■鉄道利用者のピーク率

	集積度(高)～集積度(低)	(参考)標準偏差
大都市圏	0.16～0.23	0.03
地方都市圏	0.16～0.26	0.05

資料：駅前広場計画指針 P97

① バス乗降場 → 0 台

現在、滝尾駅周辺地区には路線バスが運行していません。

② 自動車乗降場 → 4 台

「自動車（同乗）」のピーク時の利用は 10.67 人（760 人×ピーク率 0.26×分担率 5.4%）となっています。JR 滝尾駅には、朝夕の時間帯で一時間に 3 本停車するため、4 台分（9.79÷3）が必要となります。

③ 自家用車短時間駐車場 → 16 台

JR 滝尾駅は主に通勤・通学で利用されているため、760 人の利用者は朝夕の往復で利用することから、乗車または降車のみの利用者数は 380 人（760 人÷2）とします。

380 人に分担率を乗じると、20.5 人（380 人×5.4%）が自分の運転で移動していることとなります。さらに、平均乗車人数 1.3 人※で割ると 16 台分（20.5 人÷1.3 人/台）が必要となります。

※ 駅前広場計画指針

④ タクシー乗降場（待機場） → 0 台

パーソントリップ調査結果ではタクシー利用はありません。

⑤ 駐輪場（自転車・バイク） → 62 台

③自家用車短時間駐車場と同様の考え方で算出すると、62 台分（380 人×分担率 16.2%）が必要となります。

(2) 交通量調査結果

2023 年（令和 5 年）10 月 17 日（火）に実施した交通量調査の結果より、施設規模を算出します。

■JR 滝尾駅利用者の交通手段

	路線バス	自動車 (送迎)	自動車 (運転)	タクシー	バイク	自転車	徒歩	総計
ピーク時間 (7:20-8:20)	0	6	0	0	2	43	63	114
調査時間 (6:00-9:00)	0	15	0	0	4	110	129	258
	0.0%	5.8%	0.0%	0.0%	1.6%	42.6%	50.0%	100.0%
					44.2%			

資料：交通量調査結果

■駐輪場利用者の乗降割合

	乗車	降車	合計
自転車	72	38	110
バイク	4	0	4
合計	76	38	114
駐輪場利用者 乗降割合	66.7%	33.3%	100.0%

資料：交通量調査結果

① バス乗降場 → 0 台

現在、滝尾駅周辺地区には路線バスが運行していません。

② 自動車乗降場 → 2 台

自動車（送迎）の利用は、朝ピーク時に 6 人となっています。JR 滝尾駅には、朝夕の時間帯で一時間に 3 本停車するため、2 台分（6 人÷3）が必要となります。

③ 自家用車短時間駐車場 → 0 台

交通量調査結果からは自家用車短時間駐車場の利用はありません。

④ タクシー乗降場（待機場） → 0 台

交通量調査結果からはタクシーの利用はありません。

⑤ 駐輪場（自転車・バイク） → 112 台

JR 滝尾駅は主に通勤・通学で利用されているため、760 人の利用者は朝夕の往復で利用することから、乗車または降車のみの利用者数は 380 人（760 人÷2）とします。

駐輪場（自転車・バイク）の利用割合を乗じると 168.0 人（380 人×44.2%）となります。

利用者の乗降率を考慮して、112 台分（168.0 人×66.7%）が必要となります。

(3) 大分市内の鉄道駅の事例

大分市内にある JR 大分駅を除いた利用者数が多い鉄道駅（JR 高城駅・JR 鶴崎駅・JR 大在駅）の整備状況より、施設規模を算出します。

■各駅の利用者数と施設数

	利用者数※	自動車乗降場	自家用車用短時間駐車場	タクシー乗降場	駐輪場（自転車・バイク）
高城駅	3,400 人/日	4	15	4	332
鶴崎駅	3,800 人/日	0	21	5	744
大在駅	4,400 人/日	1	21	6	624

※大分市統計年鑑（2019 年度（令和元年度））

■利用者 1 人当たりの各設備の数

	自動車乗降場	自家用車用短時間駐車場	タクシー乗降場	駐輪場（自転車・バイク）
高城駅	0.0012	0.0044	0.0012	0.0966
鶴崎駅	0.0000	0.0055	0.0013	0.1935
大在駅	0.0002	0.0048	0.0014	0.1418
荷重平均	0.0004	0.0049	0.0013	0.1455

① バス乗降場 → 0 台

現在、JR 高城駅、JR 鶴崎駅、JR 大在駅のロータリー内に路線バスは運行していません。

② 自動車乗降場 → 1 台

自動車の乗降場は、1 台分（760 人/日×0.0004）が必要となります。

③ 自家用車短時間駐車場 → 4 台

駐車場（時間貸し）は、4 台分（760 人/日×0.0049）が必要となります。

④ タクシー乗降場（待機場） → 1 台

タクシー乗降場（待機場）は、1 台分（760 人/日×0.0013）が必要となります。

⑤ 駐輪場（自転車・バイク） → 111 台

駐輪場は、111 台分（760 人/日×0.1455）が必要となります。

6. 滝尾駅前広場整備基本計画の策定経過

2022 年度（令和 4 年度）		
2023 年（令和 4 年）	2 月 11 日	第 1 回滝尾駅前広場に関するワークショップ（地区住民） ○募集対象：滝尾地区にお住まいの方 ○開催場所：大分南部公民館 集会室 ○参加人数：36 名 ・滝尾駅前広場の「使い方」を考えよう
	3 月 30 日	滝尾駅周辺整備基本構想 公表
2023 年度（令和 5 年度）		
2023 年（令和 5 年）	7 月 30 日	第 2 回滝尾駅前広場に関するワークショップ（地区住民） ○募集対象：滝尾地区にお住まいの方 ○開催場所：大分南部公民館 集会室 ○参加人数：12 名 ・滝尾駅前広場の「イメージ図（案）」について意見を出そう ・滝尾駅前広場の「レイアウト」を考えよう
	9 月 22 日	第 1 回滝尾駅前広場の基本計画に関する地元会議 ○参加者：滝尾地区の自治会、地元関係者 ○開催場所：森岡校区公民館 ○参加人数：約 11 名 ・ワークショップの結果報告 ・滝尾駅前広場基本計画図（たたき案）について
	10 月 29 日	滝尾地区連合自治会 報告 ○参加者：滝尾地区連合自治会（24 名） ○開催場所：森岡校区公民館 ・第 1 回滝尾駅前広場の基本計画に関する地元会議の開催報告
	11 月 11 日 11 月 13 日	都市計画変更についての地元説明会 ○開催場所：森岡校区公民館 ○参加人数：84 名（47 名、37 名）
	11 月 16 日 ～ 11 月 30 日	都市計画変更の素案縦覧
	-	都市計画変更の公聴会 ※意見が無かったため開催なし。
2024 年（令和 6 年）	1 月 15 日 ～ 1 月 29 日	都市計画変更の案縦覧

2024 年（令和 6 年）	1 月 25 日	第 2 回滝尾駅前広場の基本計画に関する地元会議 ○参加者：滝尾地区の自治会、地元関係者 ○開催場所：森岡校区公民館 ○参加人数：約 11 名 ・第 1 回地元会議のご意見に関する回答について ・駅前広場の施設、道路形状について ・駅前線の道路線形について ・整備に向けての課題、整備手法について
	2 月 27 日	都市計画審議会
	3 月 25 日	都市計画の決定・変更
	3 月 30 日	滝尾地区連合自治会 報告 ○参加者：滝尾地区連合自治会（25 名） ○開催場所：森岡校区公民館 ・第 2 回滝尾駅前広場の基本計画に関する地元会議の開催報告
2024 年度（令和 6 年度）		
2024 年（令和 6 年）	12 月 26 日	第 3 回滝尾駅前広場の基本計画に関する地元会議 ○参加者：滝尾地区の自治会、地元関係者 ○開催場所：森岡校区公民館 ○参加人数：約 10 名 ・基本計画について
	12 月 27 日	滝尾駅前広場整備基本計画の策定



碓山公園から望むまちの様子(令和 6 年 12 月撮影)

編集・発行 大分市 都市計画部 まちなみ企画課

〒870-8504 大分市荷揚町2番31号
TEL (097) 534-6111
FAX (097) 534-6120
E-mail matikikaku@city.oita.oita.jp
URL <http://www.city.oita.oita.jp>

2024年（令和6年）12月 策定